

平成 24 年度 高知県安全安心まちづくり推進会議総会

1 開催日時 平成 25 年 2 月 6 日（木） 午後 1 時～午後 3 時 41 分

2 開催場所 高知会館 2 階 白鳳の間

3 会次第

- 13：00 開会
- 13：03 表彰
- 13：13 受賞者代表あいさつ
- 13：15 会長あいさつ
- 13：18 新規参加構成員の紹介
- 13：20 総会議事
- 13：55 講演
- 15：10 安全安心まちづくり活動事例発表
- 15：33 安全安心まちづくり宣言
- 15：41 閉会

4 議事録

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

皆様、大変お待たせいたしました。ただいまから、平成 24 年度高知県安全安心まちづくり推進会議総会を開催いたします。

私は、事務局であります、高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課で安全安心まちづくりの担当をしております、山崎と申します。本日の進行役を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の総会につきましては、お手元の緑色の総会資料 1 ページに会次第が載っております。この会次第に従いまして、進行させていただきます。

それでは、総会の開会に当たりまして、高知県安全安心まちづくり推進会議の中澤副会長から『開会のことば』をお願いいたします。

◎高知県安全安心まちづくり推進会議 中澤副会長

皆様、御多用の中を、このように多くの出席をいただきまして、本当にありがとうございます。本日は、1 年に 1 度の構成員の皆様方がお集まりになる、貴重な機会でご

ざいます。是非、それぞれの地域の情報交換をしていただければというふうに思っております。

それでは、ただいまから平成 24 年度高知県安全安心まちづくり推進会議総会を開催いたします。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

続きまして、『高知県安全安心まちづくり功労団体等表彰』並びに、『高知県犯罪のない安全安心まちづくりポスター優秀作品の表彰』を行います。

初めに、平成 24 年度『高知県安全安心まちづくり功労団体等表彰』を行います。恐れ入ります、会長は壇上のほうへお願いいたします。

この表彰は、犯罪のない安全で安心なまちづくりにおきまして、優れた活動を行われました地域活動団体、事業者の方々に対しまして、推進会議会長より行われるものでございます。御功績につきましては、お手元でございます、赤色の『安全安心まちづくり功労団体等名簿』をごらんください。

それでは、お名前を読み上げますので、受賞されました方は、順次、前にお進みください。

まず、団体の部の表彰でございます。「自主防犯組織さめうらポリス」様。

◎会長（高知県 尾崎知事）

表彰状。「自主防犯組織さめうらポリス」様。あなた方は、犯罪のない安全安心な社会の実現のため、地域における防犯活動に尽力されましたので、その功績をたたえ、表彰します。平成 25 年 2 月 6 日。高知県安全安心まちづくり推進会議会長、高知県知事、尾崎正直。どうも、おめでとうございます。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

「土佐風の子ポリス」様。

◎会長（高知県 尾崎知事）

表彰状。「土佐風の子ポリス」様。以下同文でございます。本当にどうもおめでとうございます。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

「すくも菜の花見守り隊」様。

◎会長（高知県 尾崎知事）

表彰状。「すくも菜の花見守り隊」様。以下同文でございます。本当にどうもおめでとうございます。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

「中村地区少年補導員連絡協議会」様。

◎会長（高知県 尾崎知事）

表彰状。「中村地区少年補導員連絡協議会」様。以下同文でございます。本当にいつもありがとうございます。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

「土佐清水市チャリパト隊」様。

◎会長（高知県 尾崎知事）

表彰状。「土佐清水市チャリパト隊」様。以下同文でございます。どうもいつもありがとうございます。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

「三里交番タウンポリス」様。

◎会長（高知県 尾崎知事）

表彰状。「三里交番タウンポリス」様。以下同文でございます。本当にどうもいつもありがとうございます。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

続きまして、個人の部の表彰でございます。

「野原清司（のはら きよし）」様。

◎会長（高知県 尾崎知事）

表彰状。「野原清司」様。あなたは犯罪のない安全安心な社会の実現のため、地域における防犯活動に尽力されましたので、その功績をたたえ、表彰します。平成 25 年 2

月 6 日。高知県安全安心まちづくり推進会議会長、高知県知事、尾崎正直。どうもありがとうございます。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

「渡邊勲（わたなべ いさお）」様。

◎会長（高知県 尾崎知事）

表彰状。「渡邊勲」様。以下同文でございます。どうもいつもありがとうございます。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

引き続き、平成 24 年度『高知県犯罪のない安全安心まちづくりポスター』優秀作品の表彰を行います。

お手元の総会資料 7 ページをごらんください。これは、犯罪のない安全安心まちづくりを、広く県民の皆様呼びかけるため、昨年ポスターの募集を行いまして、応募作品 202 点の中から最優秀賞・優秀賞各 1 点、佳作 6 点が選ばれました。今回、受賞されました作品は、会場の後方と役員席の後方にそれぞれ掲示しておりますポスターに、また、お手元にお配りしましたポケットティッシュの図柄に活用させていただいております。

それでは、お名前をお呼びしますので、受賞されました方は、前にお進みください。優秀賞。高知大学教育学部附属中学校 2 年、「高橋佳江（たかはし かえ）」さん。

◎会長（高知県 尾崎知事）

賞状。優秀賞。高知大学教育学部附属中学校、「高橋佳江」様。

あなたの作品は、平成 24 年度『高知県犯罪のない安全安心まちづくりポスター』審査において、頭書の成績をおさめられましたので、これを賞します。平成 25 年 2 月 6 日。高知県安全安心まちづくり推進会議会長、高知県知事、尾崎正直。どうもおめでとうございます。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

なお、最優秀賞には、高知市立愛宕中学校 3 年、「恒石茜（つねいし あかね）」さんが受賞されましたが、本日は御都合により欠席をされておりますので、御披露のみさせていただきます。

また、ポスターの優秀作品には、佳作としまして、香美市立鏡野中学校の「福留果

梨(ふくどめ かりん)」さん、土佐市立高岡中学校の「渡邊葉月(わたなべ はづき)」さん、同じく高岡中学校の「谷口真菜(たにぐち まな)」さん、同じく高岡中学校の「堅田愛花(かたた あいか)」さん、同じく高岡中学校の「西原奈緒子(さいばら なおこ)」さん、高知大学教育学部附属中学校の「山崎風佳(やまさき ふうか)」さんが選ばれております。

佳作の6名様につきましては、後日、在学の学校を通じまして表彰状を伝達させていただきます。

それでは、受賞者を代表いたしまして中村地区少年補導員連絡協議会の「山崎榮恵(やまさき さかえ)」様から、御挨拶をいただきます。

山崎様と尾崎会長は、どうぞ壇上へお進みください。

受賞者の皆様は、恐れ入りますが、その場で御起立をお願いします。

◎受賞者代表 山崎榮恵

受賞者を代表しまして、一言、お礼申し上げます。本日は、『高知県安全安心まちづくり功労団体等表彰』及び『高知県犯罪のない安全安心まちづくりポスター入選の表彰』をいただき、ありがとうございます。私たちは、これまで、安全で安心して暮らせる地域を見守るため、それぞれが子どもたちへの声かけや、地域でのパトロール活動などを行ってまいりました。また、取組の大切さをアピールするためのポスターを一生懸命考えて作成いたしました。今回、この努力が評価されてこのような榮譽に授かり、心からうれしく思います。同時に、こうした活動を続けてこられたのも、周囲の様々な方々の御理解や御支援があったからこそであり、厚くお礼を申し上げます。「安全安心まちづくり」の取組は、今すぐに効果が現れるというものではなく、本当に地道な活動によって、少しずつ効果が現れてくるものだと思います。私たちは、この度の受賞を励みとして、それぞれは微力ではあるかもしれませんが、自分たち自身で地域を守っていくとの思いを強く持ち、地域の皆様と力を合わせて、また、安全安心まちづくりの活動にこれからも頑張っていきたいと思っております。

最後になりましたが、御参会の皆様の御健勝を祈念し、受賞の謝辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

平成25年2月6日。受賞者代表、中村地区少年補導員連絡協議会、山崎榮恵。ありがとうございます。

◎司会(高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎)

どうぞ御着席ください。

ありがとうございました。

以上をもちまして、表彰式を終了いたします。

ここで、高知県安全安心まちづくり推進会議の尾崎会長から、御挨拶を申し上げます。

◎会長（高知県 尾崎知事）

どうも皆様、こんにちは。本日は大変御多用の中、高知県安全安心まちづくり推進会議、こちらのほうに御参画を賜りまして、本当にありがとうございます。また、皆様方には、日頃より高知県の安全安心、これを守るため、多大なる御尽力をいただいておりますことに、本当に心から御礼を申し上げます。

また、先ほど表彰を受けられました皆様方。本当に多年にわたります御努力に心から敬意を表させていただきたいと思えます。

そして、ポスター。本当に素晴らしい作品を本当にありがとうございました。

この高知県の今の状況はどうかということでございます。皆様方も御存じのとおり、刑法犯認知件数、さらには交通事故の件数そのものは、だんだんだんだんと減少してきておりまして、これは本当に多年にわたります皆様方の大変なる御尽力のお陰かと、そのように思うわけでありまして。しかしながら、まだまだ気の抜けない点がたくさんあることは言うまでもございません。犯罪にいたしましても、街頭犯罪を始めといたしましたり、さらには振り込め詐欺といったような形で非常に卑劣な形で身近なところで起こる犯罪というのがまだまだ多数あるわけでありまして、また、交通事故にいたしましても、残念ながら高齢者の方が死亡される事件、これがあつたと。事故、これが後を絶たないという状況でございまして、引き続きこの安全安心まちづくりのための取組というのを強化していかなければならないと、そのように考えておる次第であります。今後とも各般の形でもって、いろんな施策を行っていくこととなります。その際、大事なことは官民協働で多くの皆様方とともに連携をして、ネットワークでもって取組を進めていくということではないかと、そのように考えておる次第でございまして、今日推進会議として一同にお集まりいただきました、皆々様方とともに、今後も安全安心のまちづくりに向けた取組を進めさせていただきたいと思えます。

今日、後の会議で、議題として挙げさせていただいております項目の中に、来年度の活動についてということをお審議をいただくこととなっておりますが、是非とも活発な御審議をお願いを申し上げたいと、そのように思います。

この安全安心まちづくりという観点に立って、特に近年、次の2点が重要だと考えておるところでございまして、またいろんな意味で皆様方の御指導御鞭撻を賜りたい

と考えております。

第一点が、南海トラフ巨大地震対策への備えということでございます。日頃からの治安維持のための取組、さらには日頃からのお互いの見守り、支え合いの取組。これが、いざというときには防災のための、減災のための、命を救うための取組につながっていくということではないかと、そのように考えております。日頃のお互いの見守りネットワークがあってこそ、いざというときに、例えば要援護者の方を救うことができる、ということにもつながってくるんじゃないかと思えます。また、逆に言いますれば、防災の取組、減災・防災の取組。このために、日頃より地域地域において、一定のネットワークを作っていくということが、日頃の防犯、安全安心、このまちづくりにもつながっていくという、そういう関係にあるのではないかと、そのように考えておる次第でございます。是非、防災・減災の取組、これと安全安心なまちづくりの取組と一体となって捉まえてもって、取組を進めていく。こういう観点も、また是非加味しながら取組を進めさせていただければと、そのように思っております。

あともう一点になりますが、やはり中山間地域、非常に多くの皆様が孤立している状況、これがたくさん出てきておると、そのように考えておる次第です。残念ながら、非常に残念な孤立死の事案、こういうものも多数あるわけでございます。昔であれば、地縁、血縁で解決しておった問題が、非常に若い人が少なくなる過疎化、高齢化が進んでいくという状況の中で、あえて意図的にこういう見守り、支え合いのネットワークを作らなければ解決できないということが多数あるように思っております。日本一の健康長寿県構想の中でも、高知型福祉として意図的に支え合いの力を作っていこう、地域での支え合いの取組を進めていこう、そういう取組も進めてきているところでございますが、安全安心まちづくりの取組におきましても、是非ともこの中山間における新たな課題に対する取組ということも視野に入れて進めさせていただければと考えておる次第です。

本日、この新しい2点の取組につきまして、是非多くの皆様方に、また、新しく参加いただきました皆様方にも、是非改めてこの問題について考えていただきたく、この後、講演もこの二つのテーマについて準備をさせていただいておるところでございます。是非この機会、有意義にお使いいただければと、そのように考えております。

それでは皆様方、本当にこのように安全安心まちづくりに向けまして多大なる御貢献をいただいておりますことには、本当に心から御礼を申し上げます。本日の会議、短時間ではございますけれども、是非よろしく願いをいたします。

どうもありがとうございました。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

ありがとうございます。なお、先ほど、受賞されました皆様方は、これにて会場を後にされます。会場の皆様、受賞者の方々に今一度、盛大な拍手をお願いいたします。

ありがとうございました。

それでは、会長、副会長は、どうぞ前の席にお移りください。

続きまして、新しく当推進会議の構成員に加わりました団体を御紹介いたします。今年1月21日から新しく構成員となりました、「あさひのこどもを守る会」様です。

ありがとうございます。

「あさひのこどもを守る会」様は、主に高知市旭地区におきまして、児童の見守り活動やパトロールなどを実施されております。構成員は、学校やPTA、企業、町内会など、55団体、約3,000名と非常に多く、毎年実施されておりますパレードは、地区内の学校のブラスバンドなどを先頭に、盛大に行われております。また、運動会などの地区の行事を通じまして、住民の交流に取り組み、地域ぐるみでこどもを守っていこうと、意欲的に活動されております。

本日は、長尾会長様を始め、副会長、事務局長の皆様にお越しいただいております。

私たち推進会議の仲間として、地域におけます安全安心まちづくりの推進をともに進めていただきますよう、皆様よろしくをお願いいたします。

では、ただいまから議事に移ります。議事進行につきましては、推進会議規約により、議長であります尾崎会長をお願いいたします。

◎会長（高知県 尾崎知事）

それでは、私が議長を務めさせていただきます。限られた時間でございますが、精力的に議事をまとめさせていただきますと考えております。どうぞ御協力をよろしくお願いをいたします。

それでは、早速議事に入ります。

議題は、お手元の次第どおり議題1から議題3まででございます。これらの議題につきましては、1月18日に開催されました推進会議幹事会において議論されておりますので、事務局から説明や提案を受けながら進めてまいりたいと考えます。

それでは、議題1の『平成24年度の取組実績』について事務局から説明をお願いします。

◎事務局（県民生活・男女共同参画課 武政）

はい。事務局から説明をさせていただきます。

資料はお手元の緑色の総会資料で書いてます。よろしくお願いたします。

まず、資料の2ページをお開きください。2ページでございます。当推進会議では24年度、四つの重点テーマを設け、それぞれのテーマに沿った取組を進めてまいりました。

一つ目の重点テーマであります、「地域で子どもを見守ろう」では、市町村によるスクールガード・リーダーの委嘱、「あんしんFメール」登録の促進、防犯教室や不審者対応訓練の実施、通学路安全の日、通称「三もくの日」における見守り活動などの取組を行ってきました。また、一番下の項目でございますが、昨年、京都府で登校中の小学生が多数巻き込まれた交通死亡事故が発生しましたことから、当県でも通学路安全対策として、危険箇所を639カ所抽出し、順次対策を実施しているところでございます。次に、中段の統計資料ですけれども、平成24年中の子どもが関係する声かけ事案、刑法犯罪、交通事故の発生件数は、いずれも昨年よりは減少しております。ただ、そうした中でも「声かけ事案」の対象者に小学生が多く、このことは誘拐や性犯罪などにもつながるおそれがあること。また、全ての「わいせつ犯」の約半分で子どもが被害に遭っていること。さらに、交通事故におきましても、発生件数、負傷者数は減少していますが、死亡事故が発生していること。こうしたことから、関係機関の団体が更に連携しながら、引き続き子どもたちの安全対策を進めていく必要があると考えます。

次に3ページをお開きください。「高齢者などを事故や事件から守ろう」では、地域活動団体などによる高齢者宅訪問活動、交通事故防止キャンペーンに伴う1万人訪問活動、高齢者交通安全教室、広報紙やラジオを利用した広報啓発活動などの取組を行ってまいりました。中段のデータでございますが、平成24年中の交通事故は、件数、負傷者は減少したものの、亡くなられた方は前年より7名増加してしまいました。特に高齢者の交通事故は、発生件数、亡くなられた方、負傷された方、いずれもが増加しており、交通死亡事故全体に占める高齢者の割合は約64%となっております。一方、刑法犯に占める高齢者、女性の被害は、いずれも発生件数は減少し、総数に占める割合は、高齢者で約1割、女性が約3割となっております。刑法犯全体で申しますと、窃盗犯の被害が全体の約76%と一番多いのでございますが、振り込め詐欺などの知能犯被害の約3割が高齢者ということ。また、わいせつ犯では約76%が女性が被害者となっております。こうしたことから、高齢者や女性などを事故や事件から守るため、引き続き、広報活動や見守り活動などに取り組む必要があると思います。

続きまして、4ページをお開きください。「鍵かけ運動を進めよう」では、一戸建て住宅や共同住宅の犯罪予防を呼びかける「安全安心リーフレット」の配布、自転車盗難被害防止モデル校へのワイヤーロックの配布、広報紙などによる啓発活動などの取組を行ってまいりました。データでは平成24年中の刑法犯発生件数は7,082件と、前年より1,000件近

く減少し、それに合わせて窃盗犯被害総数も減少しております。ただ、窃盗犯被害の中では、車上ねらいや住宅を狙った侵入盗被害が増加しております。これらの被害の多くが鍵をしてなかったばかりに被害に遭ったり、戸締りをしていなかった箇所から侵入されたりしております。また、乗り物盗被害につきましては、件数は減少しておりますが、こちらも鍵をかけておらず被害に遭ったケースが約6割を占めております。つまり、窃盗事件の被害を今後も減少させていくためには、自転車やオートバイなどのロック、住宅では外出するときの戸締りなど、確実な鍵かけを、引き続き呼びかける必要があると考えております。

続きまして5ページをごらんください。「振り込め詐欺などの被害を防ごう」でございます。この振り込め詐欺などの、などございますが、最近、オレオレ、あるいは架空請求、還付金といった振り込め詐欺の手口以外にも、社債、外貨や未公開株取引など金融商品取引を語った詐欺被害が非常に目立っており、これらの被害防止も含めた取組としたものでございます。24年度は、街頭キャンペーンによる広報啓発活動、犯罪被害防止教室の実施、広報紙やラジオなどを利用した広報啓発活動のほか、新たに被害防止を呼び掛けるコールセンターの設置などの取組を行ってまいりました。しかしながら、振り込め詐欺などの被害は、平成22年までは減少しましたものの、23年は増加し、24年は更に増加しているという状況でございます。平成24年中、振り込め詐欺被害が目立ちましたのは、税務署や社会保険事務所などの職員を名乗って、「税の戻りがある」などと語ってくる還付金詐欺被害でございます。また、振り込め詐欺と同じように電話などを用いて、「非常に利回りの高い社債があるけれども、一般には販売しておりません。あなただけに御案内します」など、言葉巧みにもうけ話を持ち出し、現金を振り込ませるという金融商品取引などを語る詐欺事件が多発しております。平成24年中、県内では24件発生し、被害総額は2億円近くに上っております。当然のことながら、こうしたうまい話はあり得ないのでございますが、被害者の約9割が65歳以上の高齢者で、似たような手口の被害が繰り返されている状況にあります。これらのことから、振り込め詐欺や類似の詐欺犯罪に対して、今後も繰り返し広報活動などを行い、被害を未然に防ぐ取組が必要と考えます。

続きまして、「平成24年度の事業計画に基づく主な取組について」説明します。資料は6ページをお開きください。推進会議では、昨年4月から本日総会までに啓発活動といたしまして、先ほど表彰が行われました安全安心ポスターの募集・作成を始め、推進会議構成員の皆様を取組実績などをホームページで公表するとともに、広く県民の皆様を対象に「安全安心まちづくりニュース」を年4回発行いたしました。お手元には参考として、本年度第3号のまちづくりニュースを配布させていただいております。また、構成員の皆様の情報交換を図ることを目的に、新たに会報の発行を始めましたほか、課題であります

若者の活動参加を促進するため、昨年 10 月に県立大学の大学祭会場におきまして、大学生の防犯ボランティアとの共同で、護身術教室や防犯クイズを行うイベントを開催しております。そのほか、全国地域安全運動期間中の取組として、高知県防犯協会などとの共催によりまして、防犯の分野で顕著な御功績のありました方々の表彰や講演を行います「高知県民のつどい」を開催しております。

以上、平成 24 年度の四つの重点テーマに基づいて、それぞれの取組や今後の課題などについて説明させていただきましたが、ただいま紹介したもの以外にも、推進会議、構成員の皆様によりまして、それぞれの特色を生かした様々な取組を行っていただいております。その取組は別冊の黄色の総会資料、「～事業者・団体及び市町村の取組状況～」としてまとめさせていただいております。時間の都合で個別には紹介できませんけれども、前半のほうの資料 1 では、事業者・団体の皆様の取組として、登下校時の子どもの見守りや高齢者宅訪問、啓発パレード、安全教室の開催、こども安全シェルターの活動などが実施されております。また、後半の資料 2 では、市町村での啓発イベント、公用車に防犯パトロール中とのマグネットを貼っての啓発活動。また有線放送や防災無線を使つての振り込め詐欺への注意喚起などの取組を掲載しております。皆様のこうした地道な取組のお蔭もありまして、県内の交通事故や刑法犯の発生件数の減少など、県民の安全安心につながるところでございまして、感謝を申し上げます。

事務局からの説明は以上でございます。

◎会長（高知県 尾崎知事）

はい、ありがとうございました。

ただいま事務局から説明のありました『平成 24 年度の取組実績』につきまして、御審議願います。御意見や御質問のお有りの方、いらっしゃいますでしょうか。

はい、どうぞ。

◎高知県社会福祉協議会

実績ということではないのですが、私どもは県の御指導により、地域福祉活動計画ということで皆とずっと市町村社会福祉協議会を作っておりまして、ほぼ今年で全市町村に計画づくりができております。今年度から、特に、実践活動に力を入れておりまして、会長さん、先ほどもお話がありましたように、近年地域の支え合いが、非常に都市部、あるいは中山間部では弱くなっているのです。もう一回支え合いの仕組みを作ろうじゃないかということで、今関わる市町村からですね、それぞれ地域住民、今日もおいでます民生委員の方とか、町内会の方とか、老人クラブの方とか、いろんな関係の住民の方が集まって

いただいて、地域の支え合いのネットワークづくりをそれぞれ小地域ごとに作ろうじゃないかということで行っておりますので。この主要計画の4テーマ、実績のこの4テーマというのは非常に密接に関わり合っておりますので、我々の高知県社協としましても、今後これに取り組んでまいりますので、皆様とともにですね、手を携えてやっていきたいというふうに考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

以上でございます。

◎会長（高知県 尾崎知事）

はい、ありがとうございました。

そのほか、ございませんでしょうか。よろしいですか。

はい。それでは次の議題に移らせていただきたいと思います。

次に、議題2の『平成25年度の重点テーマ』について、事務局から説明をお願いします。

◎事務局（県民生活・男女共同参画課 武政）

はい。『平成25年度の重点テーマ』について説明いたします。

資料の8ページをお開きください。8ページでございます。先ほど議題1のところでは24年度の重点テーマごとの取組や、成果や課題などを説明させていただきました。刑法犯の認知件数が大きく減少しますなど、取組が総じて成果を上げていると考えておりますが、8ページのホームページの上から書いてありますとおり、地域の宝と言われる本県の将来を担う大切な財産である子どもを守ること。また高齢化が進む本県において、高齢者を交通事故や振り込め詐欺などの犯罪被害から守ること。さらに鍵かけ運動を進めることなどは、今後も引き続き重点的な取組が必要であると考えます。

このため、平成25年度の重点テーマは平成24年度に引き続きまして、「地域で子どもを見守ろう」、「高齢者などを事故や事件から守ろう」、「鍵かけ運動を進めよう」、「振り込め詐欺などの被害を防ごう」、以上の四つとすることを提案したいと思います。

事務局からは以上でございます。

◎会長（高知県 尾崎知事）

はい。ただいま事務局から説明のありました『平成25年度の重点テーマ』について御審議を願います。御意見や御質問のお有りの方、挙手をお願いいたします。

いかがでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。これでよろしゅうございますか。

はい。ありがとうございました。

それでは、『平成 25 年度の重点テーマ』につきましては、「地域で子どもを見守ろう」、「高齢者などを事故や事件から守ろう」、「鍵かけ運動を進めよう」、「振り込め詐欺などの被害を防ごう」の 4 点を重点テーマとして、取組を進めていくことに決定をいたしました。それでは、よろしくお願いいたします。

次に、議題 3 の『平成 25 年度の事業計画』について、事務局から説明をお願いいたします。

◎事務局（県民生活・男女共同参画課 武政）

はい、議長恐れ入ります。

◎会長（高知県 尾崎知事）

はい。

◎事務局（県民生活・男女共同参画課 武政）

最後に一点だけよろしいでしょうか。

◎会長（高知県 尾崎知事）

どうぞ。

◎事務局（県民生活・男女共同参画課 武政）

恐れ入ります。ちょっと議事とは関係ありませんけれども、会の冒頭でお知らせいたしました地震関係でございます。気象庁の発表によりますと、影響でございますが、高知県にはですね、18 時頃、6 時でございますね、小さな波がということで、津波警報ではなく、津波注意報が発令されるという状況になると聞いております。津波注意報というのは 1m 未満ということで、沿岸部にいらっしゃる方は海岸から離れてくださいといったことを呼びかけてございます。訂正させていただきます。注意報が必ず発令されるということではなくて、注意報が発令される若しくは海面の移動の注意があるということでございます。このことに関しまして、会場の皆様で、もし地元のほうで何らかの対策が必要ということでございましたら、その場合は退席をしていただいても構いませんので、そういった対策をとということでお願いしたいと思っております。

議長、恐れ入ります。ちょっと報告させていただきました。

◎会長（高知県 尾崎知事）

とんでもないです。

はい、ありがとうございます。いずれにしても、順次状況が変わりましたらまた御連絡をさせていただきますので、はい。

それでは『25年度の事業計画』について、御説明をお願いします。

◎事務局（県民生活・男女共同参画課 武政）

失礼しました。『25年度の事業計画』について、説明いたします。資料は9ページをお開きください。平成25年度、主な取組は、県民の皆様の犯罪防犯意識を高めるため、引き続き、「安全安心まちづくりニュース」の発行を始め、安全安心まちづくりポスターの募集と作成、啓発イベントの開催、ホームページ、ラジオなどを利用しての情報発信などを行ってまいります。また、24年度から始めました会報も、その誌面の充実を図ってまいりたいと考えておりますので、構成員の皆様には、また記事の寄稿、そういったことで御協力をお願いしたいと思います。さらに今年度は、「あさひのこどもを守る会」さんに新たに構成員として加わっていただきました。来年度以降も幅広い世代、分野の方々に推進会議に加入していただけるよう働きかけていきたいと思っております。関心のある団体には、こちらから説明に上がりたいと思っておりますので、会場の皆さんにおかれましては、御紹介いただける団体などございましたら、是非、事務局まで御連絡をお願いしたいと思います。

事務局からの説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

◎会長（高知県 尾崎知事）

はい、ありがとうございました。

ただいま事務局から説明がありました、『平成25年度の事業計画』につきまして御審議を願います。御意見や御質問のあらわれる方、いらっしゃいますでしょうか。挙手をお願いします。特にございませんでしょうか。よろしゅうございますか。

はい。それでは『平成25年度の事業計画』につきましては、提案のとおり決定をさせていただきたいと、そのように思います。先ほど社会福祉協議会の垣内次長さんからお話ございました、小地域の見守りネットワークシステムというのは、これからどんどん地域地域で作っていきこうという取組がまた活発に行われていくことになろうかと思っております。安全安心のまちづくりの取組と是非連携してですね、取組を進めさせていただければと思っておりますので、どうぞまたよろしく願いをいたします。

それでは、本日予定をしている議事につきましては、以上のとおりでございます。このほか、この総会の場で検討しておくべき事項がございましたら、何かこういうのはどうかということがございましたら、是非挙手をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

よろしゅうございますかね、よろしいですか。

はい。特に御意見などないようでございますので、これにて議事を終了させていただきます。

お陰様を持ちまして、本日予定しておりました議事は、全て終了いたしました。御協力ありがとうございました。議決をいただきました取組を着実に実行していけるよう、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

◎事務局（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

尾崎会長、ありがとうございました。なお尾崎会長はこの後の公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。

◎会長（高知県 尾崎知事）

それではどうも失礼いたします。申し訳ございません。

◎事務局（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

はい。ここで講演の準備を行いますので、5分間の休憩を挟まさせていただきます。その後1時48分から、次第7にあります菅原様の講演を、お話しいただきます。会場の後方にお茶の御用意をさせていただきます。自由に飲めるようになっておりますので、お飲みください。

◎事務局（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

時間になりましたので、お席のほうにお戻りください。

それでは総会を再開いたします。

お手元資料の10ページをごらんください。本日は「『隗より始めよ』～できるだけ行政に頼らない地域力～」と題しまして、宮城県仙台市宮城野区福住町の町内会長であります、「菅原康雄（すがわら やすお）」様から御講演をいただきます。講師の菅原様は動物病院を経営される傍ら、平成11年1月から福住町の町内会長を務めておられます。去る東北地方を襲いました東日本大震災ですが、菅原様は「自分たちの町は自分たちで守る」を合い言葉に、震災の以前から町内会活動として防災活動の必要性を訴えられ、10年前には福住町独自の防災マニュアルを作成し、住民らと自主的な避難訓練を繰り返し行ってこられました。日頃の活動におかれましても、地元の仙台東警察署と情報共有されながら、青色回転灯装備車を活用した自主防犯パトロールも積

極的に行っておられます。この度の講演では東日本大震災で大変な思いをされました御経験から、被災地の現状と防犯活動の必要性などについてお話をいただきます。将来、南海地震の発生が予想される本県ですが、皆様の今後の活動にも大いに参考になると思われますので、御静聴をお願いいたします。それでは菅原さん、よろしく願いいたします。

◎仙台市宮城野区福住町町内会長 菅原康雄氏

今、紹介をいただきました菅原と申します。なぜかこのスタイルで飛行機に乗って来まして、みんなびっくりしてたんですけども、震災以降、3.11以降このスタイル、もっと薄いものだったんですけども、スタイルが、やはり皆さんにお話しするときに相通ずるものがあるのかなと思って、この席には本当に失礼なんですけども、こんな格好で話を、講演をさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは早速なんですけども、やはり今回の大震災、3.11におきましては、宮城県、あるいは仙台市としまして、仙台市は我が宮城野区、隣の若林区。仙台には5区ありますけれども、この2区だけが津波によって。地震では若干ほかの区よりも家屋の倒壊、地すべり、そういったものがありました。でも、津波によってはこの2区だけなんです。震災による関連死の方を含めると、約1,000名の方がお亡くなりになっております。あるいはまだ、行方不明の方がいらっしゃいます。そういったことに哀悼の意を表しながらですね、この話をさせていただきたいと思います。

福住町では今お教えいただいたように、平成15年度から第1回目の福住防火防災訓練を大々的に町内を挙げて行っております。町内は、太平洋沿岸から約6キロぐらい入った、宮城野区の中心のところ、地域としては中心のところ、約400世帯、1,000名前後の町内会として活動させていただいております。既に14年度の頃からマニュアルの作成を始めまして、15年度にはマニュアル完成。2カ月余りで地域1,000名全員の住所録も作らせていただきましたし、あるいは、組織は町内会組織をそのまま横滑りして、防災を行っている。先ほども会長さんからお話が出ましたけども、お話が出ましたが、やはり防犯と防災は一体にしてやらなきゃ。私もそう相通ずるところがございました。やはり防犯。私はちょっとニュアンスが違うのは、日常の場合ですね、防犯、あるいは防災っていうのは即戦力が必要なわけです。即やらないと大事なことが進まない。そういったことから、防災と防犯は当町内会では約31名の執行部がおります。400世帯で31名ですから、十数件、箇所かな、の割合で役員をしている。本当は全世帯に役員をさせていただきたいと思ってるんですけども、そうはままたらないわけですので、その中でも三役が現在のところ12名おります。会長、会計が1人。

あと10名が副会長兼いろいろの各部の部長というようなことで活動をしておりますので。多いからってというようなことではありませんけども、多ければやっぱりそれだけのいろんな意見が出ますし、活動もしやすい。そこでできたのが、既に地盤としては夏祭りですとか、敬老会ですとか、子ども会に対するいろんな支援ですとか。そういったことで基盤ができてたので、名簿作成も早くできたし、マニュアル作りもいち早くできたんじゃないのかなと思っております。そのときから我が町は、自分たちの町は自分たちで守るというふうなこと。その前提としまして、できるだけ行政には頼らない。今回もほとんど頼ったところはありません。逆に行政を支援いたしました。そういうふうな変わった町内会で会長をさせていただいております。できるだけ行政に頼らないっていいものは、やはり行政機関でも被害を被る。例えば仙台市の場合、102万の都市です。行政の方が1万人。消防の方が1,000名。いざ緊急の場合、その方たちが全員出動しても百万都市はカバーしきれません。一つ一つの町内会、1,379ある町内会が全て底上げして、防犯と防災について活動していれば、行政としても皆さんは、ほかのもっと大切なこともできるだろうというふうなこと。ですから、命を、財産を守るのは我々ですと。個人情報保護法は置いて、まずは命と財産を守るというふうなことを先駆けて活動させていただいております。

皆さんこのページを多分ごらんいただいた方がいらっしゃるかもしれません。こちら太平洋側です。この地区が一番初めに報道に載った、海岸に200から300の遺体が打ち上げられているという、若林区の荒浜地区です。4、5mの津波が、伊達政宗が築いた貞山運河を通り越して襲ってます。この住宅は全部のまれました。藤田地区というところですよ。ちょっと角度を変えますと。

こちらのほうには今回236名の方の命を守ったという東北有料道路。5、6mから10mぐらい高い、高台ですね。陸の水をせき止めた、津波をせき止めたところです。これがございます。これによって236名がのり面に上がりましてですね、助かっております。

これは近隣の、こちら側が太平洋です。先ほどの荒浜地区の荒浜小学校、こちらの生徒さんたち、あるいは近隣の方が避難をして、雪の降る中、何もなくて、着のみ着のままの状態であの寒い夜空、雪の降る中を過ごして、12日翌日、自衛隊、消防のヘリによって助けられました。救出されました。

これは、今の荒浜地区の3.11前です。こちら太平洋側です。こちらが北側、こちらが南側ですね。ここが住宅密集地です。ここが荒浜地区です。これが小学校、今映しました小学校。ここに道路があります。塩釜と亘理というところにつながる道路なんです。よく皆さん報道に載ったのは閑上、門に水と書いて「ゆり」と読みます。

閑上地区。ここが閑上地区、これが名取川です。これが仙台市との境、南側の境。これが藤塚地区、ここも全滅です。これが一瞬の間に、跡形もなく、全て引き波で持っていかれてしまいました。人命も持っていかれました。こちらのほうでは約 400 名の方がお亡くなりになってます。若林区です。先ほどの映像がこれだとしますと、一瞬のうちにこのような状態でございます。土台しか残ってません。

これは先ほどの閑上地区を海のほうから見たところですよ。これ以前ですから、まだ近くが飛行場ですね、仙台空港。今降りようとしているところでございます。こういうふうな住宅がありました、これが一瞬のうちに、震災があって一、二時間ぐらいです。このような状態に、一瞬のうちに。水は怖い。津波は怖い。このようになってしまいます。

これは我が宮城野区の小学校、中野小学校。太平洋から大体 500m ぐらい来たところですね。ここも先ほどと同じで、着のみ着のまま、寒い夜空、雪の降る中。翌日には、でも皆さん救出されました。ここには家が流れてきてます。屋根です。こちらが基礎の部分です。体育館があります。この時点では皆さんはまだ知りません。遺体が 20 体から 30 体、体育館の中にあつたということなんです。こちらの方に、この地区では約 59 名、プラス近隣の方で 188 名の方がお亡くなりになりましたけども、なぜそんなに亡くなったかといいますと、一時はここに避難したんです。学校の屋上にほとんどの方が避難されてる。避難された方が、報道以前の情報では 1 時間たったら後は津波は来ないよと。そういう意識があつたんですね。潜在意識がありました。1 時間たって来なかったんで、皆さん降りたところに、下で井戸端会議をしてるときに津波が来ちゃった。その方々が亡くなってしまったんです。それが、あるいは 1 時間半、2 時間後まで注意しなさいよということであれば、150 名近くの方は助かったらと思います。

これはこの学校の、ちょうどこの辺が、仙台新港、仙台港でよく出てきてたキリンビールの会社がこの辺です。今この辺をですね、皆さんがいろいろ、家族の方、あるいは自分たちのものがあるかないか探しに来てる場所です。ある講演のときに言われました。皆さんはね、簡単に瓦れき瓦れきと言うけども、本当は瓦れきじゃないんだよと。あれは私たちの宝物が散乱してるんだよと。全てが瓦れきじゃないよ、というふうなお話も受けて、確かにそうだなと思いました。

これは我が救助犬。災害救助犬による救出をしてるところです。生きてる方の呼吸、あるいは心臓の音を嗅ぎ分けて捜索してる捜査犬です。足から血を流してまでも捜査されたそうです。若林区の若林消防隊の方と一緒に同行して生きてる方を救出すべく活動している風景、一場面でございます。

さて、宮城野区の流れております海岸から、先ほどの中野小学校が 500m ですけど

も、あそこのところから七北田川というような河口がありまして、その河口から約 4km 上流に来たところの七北田川です。こちら側はちょっとはつきりしない、こちら側はまだ到達してないところなんです。今ここに猛威を振るって津波が遡上してるところです。普通はこの水面よりも 4、5m 下です。これがちょうど 2 時 46 分に地震があって、津波があって、4 時 1 分のときにこのような津波が押し寄せました。

これは我が町内で、その七北田川からちょうど今の 4km 地点から分岐をして梅田川っていう二級河川があるんですね。ここの地区で、ちょうどここで 6km です、海岸から。こちら側が福住町の町内、400 世帯。集合住宅を入れると 650 世帯なんですけど。そちらのほう、ここも先ほどの七北田川もそうですが、梅田川もあと 1m でオーバーフロー、冠水してしまうところでした。こちら側もそうです。もう全部。でも、堤防が丈夫だったために冠水はしませんでした。ところが、水門が開いてたがためにですね、我が家だけ 50cm、ここの地区で入ってしましまして。50cm は下の倉庫にしてたところですから病院の倉庫ですね。そういったところもありました。

それで、今日本当はこれが本番なんですけれども、宮城県警の方からの紹介でこちらに今日来させていただきまし、もう一つは、やはり防犯ボランティアのこともお話しいただきたいとの要請があって来ましたので、これは警察の方からいただいた説明書を読ませていただいてですね、御紹介をさせていただきたいと思います。

ここで、私も感じてたんですけれども、やはり一番の今回の震災にとっての活動。これは当然、全国から警察の方がおいでいただいて、警らをされたこともしかり。我々地元でやれたことは青色回転灯、青パトによる犯罪の抑止力、これが非常に高かった。目に見えてはこれが非常に良かったというふうなことでございます。こちらのほうでも青パトは多数ありましてですね、台数があって、いろいろ日常活動されていると思います。

第 1 番目が、これは石巻です。石巻も大分、町全体が、市全体が、津波によってやられましたけども。防犯ボランティアによるパトロール。これは飽くまでも着用しているものはほかから寄贈されたものです。地元のものも全て無くなったそうです。流されてしまったそうです。これを着ながらでも、こういうふうな活動をしていると。ここに皆さん、水面があります。これは飽くまでも道路です。ここに大潮のときにあるということは、これが地盤沈下してしまったので、大潮、上げ潮のときにはこういうふうな道路上に海水が入ってきてるといふようなことが現実な状況でございます。

その次がこれは警察官と合同のパトロールをしているところです。やはり合同パトロールをして一番感じたことは、もうヘドロの乾燥した粉じんが多いので、マスクは着用しないと歩けないと。これは必需品だったといふようなことが言われてます。

またこれは同じ石巻なんですけども、空き屋になっているところ。こういった地域を巡回する防犯パトロール隊の方々なんですよね。やはりここは当分の間、地域は無人家です。ほとんど人がおりません。警戒が必要、無人だったもので、人の気配がなかったのも、むしろ逆に防犯上としては警戒の必要性、重要性が感じられたということです。悪い人は既にもう横行してます。これは現実です。3.11の夜から犯罪はもう見えてました。

これもそうですね。潮がちょっと上がってます。こうやって地盤沈下によって海水面が高く感じられるっていうふうな写真でございます。

次が防犯ボランティアによる、これもパトロール。これはちょっと南のほうに下ってきました、東松島というところ。いろいろ合併して東松島市というふうになりましたこの地区、これは野蒜と読みます。普通、雑草で生えている野蒜の野蒜だったかな、そういう字でございますね。ここもかなり津波の被害がありました。大分の方がお亡くなりになってます。こちらには群馬県から提供を受けた防犯ベストを着用して、巡回してパトロールをされてました。この、しかもこれを着てないと、こういうことがあったそうです。読ませていただきますと、防犯用品を着用していないと、泥棒として110番通報されることが多い。警戒のための巡回には非常にこの防犯ベスト、どこの県でもどこでも構わないそうです。それを着てパトロールすると非常に泥棒とは勘違いされなかったというようなことだったそうです。ここはちょうど2時46分で時計が停止しているというふうな写真であります。

次がこれも同じ野蒜地区ですね。野蒜地区なんですけど、ここの小学校には仮設トイレが設置されて、津波で上げられた泥などによってグラウンドがぬかるんでしまっているので、要らなくなったというふうな畳を置いて、畳は結構固いですから、歩きやすかったというふうな、このぬかるみに置いても良かったというふうな、一つの生活の知恵でしょうか。そういったこともされたということです。

これは自警団による夜間パトロール。仙台市の我が宮城野区の地区。宮城野区の地区でも特に先ほどの中野小学校があった蒲生地区。4町内会全滅です。それともうちよって南側には岡田地区というところがあります。ここの地区もそうですけども、私はちょっと1回も行けなかったんですけども、うちの防犯も行きましてですね、こちらのほうで活動をされました。しかも、こういうことなんです。自警団を結成して町内会などの巡回を開始した。何でその自警団までを作ってしまったのかといいますと、自分たちの町は自分たちで守るという気持ちが一気に膨れあがった行動で、こういう自警団を作ったということと、もう一つは、この頃の警察体制は行方不明者の捜索などで警戒活動の体制強化には至らなかったと。それで住民が独自に立ち上がった

というふうなことでございます。これは震災後、およそ十日後。3.11ですから、3月20日頃から自主的に自警団を作って、あるいは自主防災の方々が巡回指導をしたと、防犯パトロールをしたというふうなことでございます。

これは小学校の体育館、仙台市では小学校・中学校が避難所、指定避難所になっております。こちらのほうで避難所を巡回していただいておりますね、防犯の広報活動をやったり。また諸注意を載せた地域の安全ニュースですとか、宮城県警ホームページに掲載したもの。これはホームページにも掲載しております。こういった地区の安全ニュース、こういったものもお持ちしながらお話しをすると。

自分の避難所では入浴中の財布盗難や衣類等の盗難も発生してしまったが、大きい混乱には、皆さんがいるんですから抑止力になったと思いますね。そういったことで、なかったというふうなことがあったそうです。

これは、それらをいろいろ掲示した避難所での掲示ですね。実際面ではこれ以上ももっとも多いです。いろんな問題、福祉の問題ですとか、防犯の問題、衛生面の問題、あるいは市からの広報、そういったものも載せたものですので、これらだけではない、いろんな広報もされたというふう聞いております。

これは直接避難所に行きまして、高齢者の方、あるいは安全安心をいろいろ相談をですね、されているというふうな宮城野区の避難所でございます。

また、こちらのほうでは宮城県警の警察官の制服を着た方、あとジャンパーを着た方は警視庁の方です。警視庁の方、今でも確か、まだおいでいただいて、いろんな捜査活動、あるいは犯罪の抑止力を担っている。本当に有り難い体制だなと思っております。また、警察官のこういった姿を見せることで、やはり抑止力になると。それだけでも犯罪の抑止力には非常になっているというふうなことも言われております。

次が、皆さんのところにも、多分、多数報道されていることだと思います、石巻市の大川小学校。大多数の生徒さん、あるいは先生が津波に流されて、尊い命を亡くされた小学校でございます。こちらがこのような状態になったというようなこと、これ発災のままですが、今はきちっと慰霊碑、そういったものもいろいろモニュメントも建てられております。門のところだけは、多分丈夫だったのか、ここだけは残っているそうです。私はなぜか、ここには一度も行ったことがありません。足が向かないんですね。怖いのか分かりませんが、向かないので、この映像で勘弁願いたいと思います。献花をされていると、これも本当に発災して間もなくのことだったと思います。

これは全国から提供されたものを、ボランティアの方への支援をされているということです。品物をためない。どんどんどんどん回して防犯の活動に担っていただきたいというふうなことでですね、防犯用品を本当に被災された方に、皆さんから集まったものはすぐ、

どんだんどんストックしないで渡して、皆さんに持って帰っていただくというふうなことの一場面でございます。

また、先ほどもいろいろ皆さんのところでも表彰されたと思いますけれども、これは警備員業の協会と連携した、通学路の見守り活動です。これは石巻警察署管内です。こういったこともされたというふうなこと。

次も、今度は先ほどは警察の方と一緒に、今度は警備業協会の方と地域の方が一緒にこういった通学路の見守り活動ですよね、これも行っているというふうなことでの写真でございます。

次が青色回転灯ですね。青パトによるパトロール活動。これも非常に効果があったと。この青色のパトライトが来ますと、住民にも非常に大きな安心感を与えたということと、犯罪を起こそうとしている方の抑止力には非常に役に立つというふうなことでございます。

これは、被災状況を載せたものが2ページ、二つのスライドに載せられております。これが、こういった状況で、ここまでが県の方から頂いて今回の講演のほうに使わせていただいたものです。

これは、我が町内会、福住町町内会にある青色回転パトロールと、今年1月の17だったかな、に出初め式を行った、会員としては町内会の会員、執行部の役員31名全員入っているんですけども、たまたまこの日おいでになったのが7名、私入れて8名でしょうか、だけが出初め式、出動式に来ていただいて巡回をさせていただきました。

福住町では、3.11の発災後なんですね、発災後に4台、全国でも町内会で4台、青色回転パトロールを持っているのではないのかなと思いますけども、福住では4台、ここは所有しております。これは近くの高砂交番、必ず青色回転灯、このパトロールで走るときには、東警察署の課長さんからおっしゃられたものですから、一応交番にも顔を出してね、少し意気を高めていただきたいということと、そういったことも言われましたんで、必ずお寄りしてから、今から出動してきますということで4台で。少ないときは1台ですけども、このときは出初めですから4台で巡回をさせていただいております。

次がいよいよ私のほうの持ち回りになってきますけども、発災前の減災。地域の防災力には何を求めるでしょう、一般の方々は。これを皆さん知っていると割合、何を減災すればいいかというのはお分かりになると思っております。人を救えるのは、当然人しかいません。しかも常の訓練が非常に必要であるということ。訓練していれば、あのとき何をやった、これをやった、覚えているわけです。そういったことをですね、一つでも覚えて聞いていただければ、必ず発災、何かあったときには、有事のときには役に立つということ。同じことの繰り返しの訓練でもいいんです。これは、我々、震災前に8回ほど訓練しておりますので、それが非常に功を奏しました。

ここを箇条書きに。お話しさせていただきますけども、減災といいますのはやはり命を含めた減災なんです。こういったことを含めていただきたい。私から言えば、人も動物も一緒に命を含めた減災。皆さん、御家庭でできるのは、これは皆さんも周知のことだと思います。家具の転倒防止、ガラスの飛散防止、あるいは火災にならないような、あるいはなっ場合の消火器、あるいは今は住んでるところの地下はどうだったのか、過去に。沼だったのか川だったのか、本当に田畑だったのか、そういったDIGというのがありますね。Disaster Imagination Game。そういったこともやりながら、過去の土地はどうだったのか。あれやって怖いという人もおりました。そうですね。以前に何か、沼地だったりしたら地震のときには大変ですから。そんなことでも知っておくってことも必要です。そういったことは我々ができる減災。あと地域での減災もあります。これは地域によって、例えば高知市なら高知市では何を重点的な減災にもっていくだろう。防災じゃないんです。飽くまでも減災なんです。そういったことをしなければならぬ。大正12年の関東大震災では10万人のうち8万人の方が火事、火災で亡くなりました。さて、18年前の阪神淡路大震災、1月17日の寒いときですけれども、早朝。これは火事を含めた建物由来で92.1%の方がお亡くなりになってます、6,500名の方のうち。今回の津波では約2万人の方が溺死です。亡くなっております。被害はもっと亡くなった方が多いですけども、津波だけにとれば2万人です。そういうふうによりによって、海岸部地域、山の方、川沿いの方、いろいろ地域での減災をしなければならぬ。

2番目に移ります。やはりこの名簿。これは皆さんのところ、行政から頂いた名簿やら自分で作った名簿、全部あると思います。65歳以上の方だけが命を持ってるんでないんです。65歳以下の、ゼロ歳児から64歳までの方も命を持ってるんです。さすれば、地元で、皆さんで名簿を作って、どこに誰がどういうふうに住んでいるのか、特に民生委員の方が持っている65歳以上の方、この方たちも特に福住町では重要支援者として、何かあったらその方たちをまずお守りをして、というふうなことでさせていただいております。それにはやっぱり名簿ですね。これは大人が見ても子どもが見ても、誰が見ても分かるような名簿です。名前だけ、住所だけ羅列した名簿では分かりません。皆さんが見て分かるというのは、必ず住宅地図。それと住宅地図と名簿を見開きにして、漢字の読める子どもさんが見ても分かるような名簿を作ってというふうなことなんです。そこまですべきかどうかは、皆さんのとこで各々考えてみていただく。福住町には個人情報保護法はございません。命と財産を守ったほうがよっぽど大切だというふうな、住民の一致した見解なんです。

3番目が、やはり医療の問題。これも必要です。今回の津波では生きるか死ぬかですから、医療の方が要らないということではございません。必要です。必要なときは非常に必要になってくる。でも、普通の阪神淡路のような住宅崩壊でけがをする方は少なかったで

すので。ですから、医療の方も巻き込んだものをやっていただければと思います。それは訓練ですね。

また、あとはこれは細かいことまでは言いません。トイレは必要です。行政は3日間持ちこたえなさいと言ってます。72時間です。それは、食べなくとも飲まなくとも、平常時であれば72時間は何とか持つかもしれません。生命のぎりぎりまで。それが3日間なんです。持ちこたえてください。さすれば大丈夫かなと思うんですけども、その大丈夫かなというのは、トイレの問題です。食べても食べなくても出ます。これは非常に重要です。阪神淡路でも、これは皆さん多分周知だと思います。避難所にせっかく避難して行って亡くなる方は、トイレの問題で亡くなってるんです。飲まない食べない、トイレに行けない、行っても大変。ですから、トイレは、もし皆さんのところに大きい災害になったときには、集団避難所の隣接したところに、冬は暖かく、夏は涼しい、しかも洋式のトイレを、明るくした洋式のトイレを必ず設置するよう行政の方にお話をさせていただきたいと思います。皆さん、安心して避難できるような方法です。

5番目が地域の復旧復興には、必ず災害時協力協定が必要であるということ。事前に協定を結ぶ、あるいは交流をしておく。今回、我々は本当に地獄にあった仏というふうな感で感銘をさせていただきました。

発災前の減災、地域の防災力には何を求めるんでしょかっていうふうなこと。一つは指定の避難所。私は今、去年は大体50回ぐらい講演をさせていただいております。50回のうち、行ったり来たり、おいでになったりもありますけども、去年の11月だったかな、四万十にも来させていただきました。やはり一番皆さん、行政も危惧されているのは指定避難所です。この問題が一番危惧されているところです。我々の経験でお話をさせていただきますと、指定避難所の運営は、地域のリーダー、空気の読める地域のリーダーが指定避難所を運営すると非常に三重花丸です。行政の方は地域の空気が読めません。行政の一遍とおりのマニュアル下でそこを仕切ろうとしています。けんかが絶えません。ですから、行政の方にお話ししたいのは、マニュアルは基盤のとこだけ。マニュアルを若干打破したところで、ある程度流動的なことをしていただきたいのは、行政の方にしていただきたいですよね。その流動的っていうのはいろいろありますけども、そこがみそなんです。そんなこともできないということになれば、地域のリーダーが運営すると非常にいいと思います。また、在宅避難者にも同じように処遇をしてくださいと。避難された方は場所と食べ物が欲しいんです。在宅の方は場所はあるんです。何とか食べ物だけが欲しい。そういう方が本当に目立ちます。皆さんあげてません。あなたは避難所に来てない、いないから食事はあげられません。これ皆さん現実ですよ。平常時ならそれでもいいというんです。異常時ですよ、どなたも生きるか死ぬかの瀬戸際にいるのにあげられない。行政の方が言う

平等でしょうか。我々から言えば不平等ですね。と感じました。これは、飽くまでも仙台市内の話ですからね。こちらではありません。

また、指定避難所の光熱水道設備がない。皆さんをお呼びしてるのにも電気、ガス、水道、トイレがない。これいかにするか。せっかくお呼びするんだったらそこまで。その日だけでいいんです。せめて、あるいは3日間だけでいいんです。ライフライン。電気だって今、発電機がある。ガスだってカセットがある。水道だってポリタンクがいっぱいある。そういったものを、トイレだってあります。利用するというふうなこと。逃げてきた方、避難されてきた方のことを考えてやらなきゃいけないんですよ。ここは避難所ですよ、みんな避難してきてください。

次へ移りますと、食べ物がありません。アルファ米、水がなくてね、お湯がなくてね、アルファ米作れないんですよ。そういうことやなくて、せめてその日食べれるもの。クラッカー、缶詰のパン、お菓子。今何でもあります。保存食であります。予算は大変かもしれません。そういうものを用意し、せめてその日、翌日の朝6時頃からは皆さん活動できます。3.11は特に2時46分でした。夕方から皆さん続々、続々避難してきました。ですから、その日だけの食事があるとみんな持ちこたえるんです。と思いました。夏は涼しく、冬は暖かいものも用意しておくということです。ある避難所では1枚の毛布、20人です。20人で1枚の毛布で過ごした。これって隣接、隣同志、人間同士ですからかえって温かかったかなと私は思いますけども。20人です。それでも、あったからいいんです。先ほどの屋上にいた子どもたちは何もないんです。大切なものはやっぱり屋上にしまっておくべきですね。

全ての公共施設への避難、これは行政の方にもお話ししたいんですけど、今回もありとあらゆる公的機関には皆さん逃げました。皆さん避難しました。でも食べ物も何もない。それが現実でした。ちょこっとそこをマニュアルを正していただいて、何かを置く、避難してきてもいいようにしていただく、そういうふうな体制作りをしていただければなと思いました。

6番目はやはり動物も家族です。嫌いな方もいます。私は嫌いな人を避難所から出してあげたらいいんです。一部ですから。しかもそういうふうな方はいいですか、非常時にそういうことを言う人間というのはどこに行っても回され、つまみ出されている人間なんです。これ現実なんです。今回もそうでした。私が5カ所の避難所回らせていただいているときに1カ所ありまして、区役所からも問い合わせもあって、どうしたらいいでしょうね。いや、そういう人つまみ出せるよって。分かってるんですよ。それはもう転々転々として歩いてる人間なんですよ。平常時だったらね、動物うんぬんということ言われるほうも言うほうも分からんかもしれんです。異常時です。私か

ら見れば、動物と同行でない方はちょっと自分の身だけなんです。これは勝手かもしれませんが、嗜好品的な嗜好的な動物を飼っているかもしれませんが、そういう方は自分と動物両方見なけりゃならないんです。そこを少しは考えてあげなさいと。しかも小千谷に伺ったときに、発災10日後の小千谷に伺ったんですね、支援物資を持って、平成16年。そのときに会長さんが言ってました。「うわ、動物、犬も来た。」ところが、我々が行った10日後には、嫌いだった方がその動物がいなきゃ駄目って、癒しになるんですね。そういうふうなことでした。だから動物は本当に危険なね、秋田犬とかシェパードなんかを連れて来る人はいません。また小千谷のときもそうでした。皆さん、エコノミークラス症候群って知ってますよね。小千谷のときなんです。車で避難して、なぜ車で避難してたかという、指定避難所すぐ目鼻の先なんです。動物飼ってたがために車で、そこで初めて亡くなった。その方が亡くなった原因が、飛行機でよく多いエコノミークラス症候群だったということなんです。ですから同行の避難も、一つの場所、一つの教室そういったところを決めておかれるといいと思います。

これは発災した8時半頃の映像。ここには500人のキャパシティ、500名の収容だったんですけども、ここは地元の方がリーダーになり、校長先生は我々と一緒にサブリーダーになっていただいたものですから、多いときでも500名を超えて、1,200から1,500名収容をさせていただきました。近隣の小中学校は500人で足切り。足切られた方がここに来たんですよ。それでここだけが増えてしまったという。ちょっとこれも不平等かなって勝手に思うんですけど。

また、福住の住民がとった行動はこういうことです。下に書いてますけれども、「訓練できなかったことは実際の場ではできるはずがない」、そのとおりです。常の訓練が実を結びます。この発災してから、役員から言われた言葉が、非常にうれしかった言葉があります。「今まで訓練してたね。訓練の延長線上でこの3.11を乗り切ったよ。」それ言われたときは本当に会長としてうれしく、よかったな、訓練してよかったなと思いました。

できるだけ行政に頼らない自主的な行動ということで、初期の10日間から我々は14日間と見てました。3日じゃないよ、1週間じゃないよ、10日から2週間ぐらいだよ。何とか乗り切りました。名簿、名簿なんてあったけどもそんなもんどこにいったかありません。家の中みんなめっちゃめっちゃです。頭に入ってたんです。1回目から8回目までの訓練で、必ず皆さん住民が高齢者の方々をメガホンを持って、マイクを持って安否確認をし、それを集計して終わりではないんです。集計したものを災害時対策本部である宮城野区役所にまで必ず届けて、それで完了。そうしないと救援物資頂けません。当然今回は頂こうと思って届出したわけじゃないんです。当日じゃなくてあえて

翌日伺ったんです。当日は混沌としてるので。翌日、支援物資を持って逆に皆さんも大変でしょうから、区役所行って何もありませんからね。食べ物を持って名簿を、安否確認名簿をお持ちしたんです。1,390、79ある町内会でそんなことをやったのは福住さんだけですな、なんて区長さんからも言われましたけども。そんなこともいたしました。

3番目が町の集会所に避難をさせる。170名避難しました。でもキャパが100人でしたから100人だけ。あと70名は黙ってたら自然と一人ずつ避難所、指定避難所には行きましたけども。その後の指定避難所には行くな、と書いてます。これはどういうことか、皆さん多分これ、何でそんなこと、きょとんとすると思いますけども。今の救急車を思い出してください。本当に救急車を必要としている方は4割程度です。それ以外の6割程度の方は、軽傷もしくは救急車を必要としない方。それと同じなんです。本当に必要としている方だけが行って、広々と、暖かく、涼しく、そういったものが避難所であろうと思います。そこにはちゃんとライフラインも通じてる。それが避難所の役目だと私は思います。行政の方はここまでは言いません。皆さん来てください、避難してください。だって一つの学校を我々からいうと、約2万名の人口です。一つの小学校を。2万人収容できませんよね、当然ね。そういうことです。本当に必要としている方だけです。じゃないのかなと思っております。福住の集会所には100名、それ以外に70名行きましたけども、その70名の方には当日から食事は届けました。ほかの地区の方には悪いけども届けられません。ありませんから。でも、福住の人間には届けました。

4番目が簡易トイレと瓦れき置き場を設置。隣が公園なんですね。集会所の隣。ですから作りました。

5番目は人的被害はほとんどなかったと思います。

6番目が指定避難所に町内会より差し入れ、あるいは調理・加工を支援をしたというふうなことです。福住だってガスはない、水はない、食料はない、電気はない。でもなんとか工夫をしてもっとももっともひどいところがあるだろうということで、こちらの方々たちへ支援をあえてさせていただきました。今年の8月までで109カ所、117回ほど、複数回ですね、町内会として伺わせていただきました。北は大船渡の上の綾里、下は亘理地区。大体沿岸沿いですね、できるだけピンポイントで行かせていただきました。

ここは福住の集会所へ避難して来るところです。

これは当日もう7時半頃には食事の準備だったことで、この非常用の釜が2台、発電機も2台、発電機のガソリンが無くなってからは、車から電源を取って中の明かり、

あるいは携帯の電源、いろいろ使わせていただきました。そういった工夫をすれば何でもできるということです。死にたくはないですから。

これは集会所です。明かりがこうこうと照ってます。もう当日からですね、これ大体 7 時 31 分。先ほどの時間帯と同じ時間帯。ここに約 100 名、こちら側の通路には、わんちゃんが一頭、飼い主と一緒に避難してました。

これは 13 日、翌々日ですね。朝、日赤で奨励してる御飯、お米と水を入れてボイルするとお米が炊けるというふうなことを今、ここで何度もやってます。訓練のときにやりましたから。こういうことでさせていただきます。

これはトイレ。洋式です、飽くまでも。簡易的な椅子を使ったものですけど、洋式。ビールの箱をくりぬいたもの。あるいは段ボールを作っておまる用にして子どもには与えた。そんなこともしていろいろさせていただきました。

また、これは公園においた瓦れき置き場、これは失敗作でした。瓦れきをこうやってして、福住の方のために作った瓦れき置き場だったんですけども、ほかの方が指定の瓦れき置き場だと思って粗大ごみを持って来るんです、車で。これじゃ失敗しましたから 3 日目に閉じました。でも、ものすごい量でした。京都ですとか新潟の方々が支援してくれたから、その回収車が全部持って行っていただきました。本当に有り難かったです。

福住町の今度は支援活動です。支援活動はどういうことをしたのか。「災害時相互協力協定」、これが大切なところですね。あとはもう一つは「他助」、ヘルプです。受け身のヘルプでないほうですね。能動的なもの。そういったことを気付きをいただきました。これは災害時相互協力協定の交流、これは震災までには 4 カ所と、仙台市内が 2 カ所、茨城県の日立市、あるいは山形県尾花沢市の鶴子地区の 4 カ所。震災後、長野県のボランティア、これ 18 年度から交流をしてた長野ボランティア協会。その後、業者とも結びました。ガス会社ですね。地元のガス会社とも結ばせていただきました。今日も電話、メールで入ってましたけども、静岡県の方々と協定を結びたいんだけどもというふうな連絡が入って、非常にうれしい連絡を頂きました。そういったことで、半ばこれは平成 15 年度から福住で発信しております。行政の方々は 16 年、17 年の頃から徐々に徐々に、災害時に対しての協力協定を結ぶようになった。これは仙台市の消防局にこれを売ったわけじゃないんですけども、情報提供したところ、「よшきた、いいもんだ。」ということで仙台市で取り組み始めて。今は全国的にやってますよ。これ、飽くまでも福住の、災害時のことっていうことであれば、福住発信なんです。災害時に頼れるところがあるということは非常に心強い。いつ来てもいいぞと。しかも、元気と勇気をも同時に頂いた。

発災して4日目、3月15日には日本全国からいろんなものが送られてきましたし、協定を結んだところからもおいでになりました。今写真に出ています。もう一つ、活動をさせていただいたのは、ピンポイントで我々が探して、あるいは動物関係の方をお願いして、いろんな何がないとか、どこの地区に何がないのかを教えていただいて、行けるときには伺うという。これは19年度の中越沖地震。20年度の岩手・宮城内陸地震。複数回伺ってます。3番目の当然、動物も連れて、動物だけじゃ飽き足らず、綿菓子とポップコーンで機械を持ってって子どもたちを、被災者の方を楽しんでいただく。これが功を奏しました。今や後で出てきますけどもパンダも連れてっております。ジャイアントパンダです。

支援物資の搬送と他助に戻りますけども、当町内会は常に他を助ける意識が身に付いている。必要としている物資を、相手の見える、笑顔の見える、被災状況を分かち合える、そこで直接手渡しなんです。福住には先ほど言った117回伺っている。昨日、おとといも行ってきましたから、もっと回数増えてますけども。全て直接手渡し。そこで生まれるのが初めてきずなだと福住では思っております。

これが震災の前年、2000年に結ばせていただいた8月31日。今やこちらのほうとお祭りだ、何だかんだで交流をしています。交流をしている中で生まれてきたのが雪かき体験。ここずっと豪雪です。こちらでは考えられないような豪雪。今や小千谷では2m40ぐらい、この尾花沢では2m、あのときでもやっぱり30ぐらいだったかな、2m以上です。道路は当然雪は圧雪ですずっと低いですがけれども、そういった雪かき体験にもこの23、24と行かせていただいて雪かきの体験をしてこようと思って、今年は3回目です。協定を結んでから毎年伺ってます。

これは発災してから長野県飯田市のNPO飯田ボランティア協会。こちらは8時間片道掛かります。もう9回ほど、支援物資、義援金、ボランティアでおいでになっております。我々も2回お伺いさせていただきました。こちらにちらっと見えるのが平成17年度に防災担当大臣表彰を町内会として、全国に先駆けてちょうだいした賞状もここに飾らせていただいております。

これが3月15日に応援にいただいた池ヶ原地区の方。その日に作ったおにぎり、みそ汁、その他、お惣菜、水、ガソリンに至りました。たまたま3月15日には、夜には小千谷から池ヶ原地区から往復10時間ガソリンだけを車に満載にして、米ですとか届けていただきました。日中はハムソーセージの会社が停電で悪くなっちゃいけないということで、大量に福住にも持ってきていただいたりとか、もう3月15日は忘れられません。物すごい量の、物資が集まりました。

また、これは4月10日、長野ボランティア協会の方。これは1回だけしか講演に行

ってない、前年度に1回だけ行った当年の1月か、行った古河市ですね、茨城県の。そこからも大量に。これごく一部です。もっともっと支援物資が来てます。動物用品も含めて。これらはほとんど福住に落としたものは1割程度です。それ以外は近隣の指定避難所になったところ、町内会、そういったところに全て分けて差し上げました。遠くは先ほどお話しした、これは義援金をちょうだいしているところですね。先ほどお話ししたところの、あれは大船渡、そこに持って行ったり、女川、気仙沼、東端は石巻、全て伺わせていただきました。

それでここに湯気が今出ています。この湯気が出ているのは何かといいますと、当然お湯だから湯気が出ているわけですが、これを近隣とか指定避難所に毎日ない水を工面しながら、プロパンガスもやっとのものを使いながら、町内として指定避難所にお届けさせていただきました。多いときは朝昼晩3回1日、大体二つから三つのポリバケツに熱湯にして。後は薄めればね、大量に使えます。あるとき持っていったときに雪の降る中でしたね、18日だったかな、おばあちゃんに言われました。「やっとなんかこれって温かいお湯で歯磨けるな。」あれ言われたときには、じいんと来ましたね。やっぱりみんな後はいろいろ、お茶を飲む、ラーメンを作る際に使っていただきましたけども。お茶の間の方に見せたくないものがここにあります。この壇上にいろんな資材があります。支援物資があります。これは被災、避難されてきた方には絶対目に触れさせちゃいけない、けんかの原因になるんです。これは隠してください。ここでは何も起きませんでした。でもこういったものはやっぱりお見せしないほうがいいですね。「そこにあるじゃないか、よこせ。」特に行政の方がリーダーになって仕切っているところは本当にけんかになったそうです。これはもう隠しておくべきです。本当に少しずつ必要な分だけ皆さんに提供するというように。

これは近隣、同じ今のところでハム加工。これ、いっぱい来ましたので、魚肉の練り製品を皆さんに提供しているところです。これ3月22日です。

これは福住の町内会のお弁当屋さんで御飯を炊いていただいて、町内でカレーライスを作って約1,000食分。この日だけじゃなしにほかにもやりましたけど。この日も27日でしょうか。させていただきました。

これは綿菓子を持って行って、支援物資。これ北上町というところです。石巻のずっと上のほう、北上町。これは非常に堤防は決壊をするは、ひどかったところです。ここに綿菓子を持ってって、皆さんに見てほしいのはここなんです。レインボーカラーの綿菓子。7色なんです、ざらめ。なお思い思いのものを皆さんに作ってあげると非常に喜ばれます。今ちょっと高齢の方になると、白い綿菓子なんてしか食べなかったけども、「今は赤いのも青いのも黄色いのも、何でもあるんだね。」そういうようなことでさせて、ちょっと喜んで

いただいています。

これは 3 月 20 日、非指定避難所であった高砂市民センターにおいて、動物ふれあい活動をさせていただいています。これは河北新報という地方紙で出した写真集にも載せていただくという、別の写真ですけども、載せていただいた映像です。3 月 20 日。これはもう私は動物ふれあい活動は老人ホームの身体・心身障害施設、あるいは学校に行っては命の大切さ。これはもう十七、八年前から活動していますので、こんなものはお手の物で、場所さえあればすぐできたものですので、早速させていただいたというところです。

これは支援物資、亘理地区、あるいはここでも。あとパキスタンの方がおいでいただいて、何とカレーライスを作ってもらったところ。あとこちらは気仙沼、4 月の 2 日ですか、支援物資をいただいたものも、どんどんどんどん掃くわけです。ただ、くれるよと言ったものは断ったことはありません。いっぱいになっても全然断りません。宮城県の行政のほうではいっぱいだからお断り。それは手分けする方がいなかったからですけどね。仕方がありません。

3 時 26 分、岩手県の大船渡で地震があったときです。津波が来たときが、この時刻なんです。100 名の入所してる特別養護老人ホームの 80 名の方ぐらいが、一瞬にしてお亡くなりになった。これはここだけじゃありませんけどね。非常にかわいそうな、痛ましい津波の被害でした。

これは在宅の方々へお持ちしたところの支援物資を、いろいろ頂いたものを持ってきた。いうふうなことでした。

こちらは動物です。行ったとこのわんちゃんの診察もさせていただきます。下のケージに入っているのは隣の県です、これは。隣の県、香川県、高松。2011 年の 9 月 23 日の秋分の日動物ふれあい活動を行った、前の議長さんだった方がおって、大学での同級生の獣医師だったもんですから。篠原というものですけどね。そこに連れてきてっていうので、被災犬を陸送。約 1,000 km 陸送で高松まで届けましたところの写真です。

9 月 21 日を思い出すと、皆さんも思い出していただければ、台風 15 号があったはずで、おとし。台風と一緒に帰って家に着いたら家が 1m 水へつかってました。これが福住のこの辺にちょっと南に。下の丸のところですね。下の亘理で上のほうの地図を見ますと、上がちょうど大船渡、綾里。この綾里っていうところはあれだそうですね。300 名の人口のうち 30 名、1 割お亡くなりになってしまったという地区でございます。ここのピンポイントで被災したというふうなところなんです。今でも行政の手の届かないところに探していかないかんとということです。

これは先ほどお話ししました東部有料道路。これが東部有料道路ですね。こちらです。これがあったがために津波が全部ここでせき止められました。でなかったらこの倍はいっ

てます。869年の貞観地震のときに津波がここまで来たという浪分神社だったんです。浪と言うのはさんずいに良と書いて浪。分。これが水の分水嶺です。浪分神社があったということです。福住はちょうどここで。

ここが中野小学校です。ここには6km上流部分。津波の遡上したのが8kmぐらいまで行きました。堤防の決壊がありませんからよかったですけれども、非常に助かりました。教訓ということで、これもはしょって有料道路の活用をしてほしいと。のり面ですね。こちらのほうでもやっと国も重い腰を上げました。我々は平成16年度から、これは騒いでます。市、県、国にお話をいたしました。あそこはね、車が走るところだから、人は登っちゃ危険なのよ。そういう回答ばかりでした。今回の震災でも、東部有料道路ののり面を使ったら、ちゃんと今度は階段を付けていただいた。静岡のほうでも、こちらのほうにも高速道路があれば、そういった沿岸沿いの高速道路を有効活用していただければなと思って。

8番目の瓦れきの処理の問題もいろいろありました。けどもこれはやり抜きます。

12番目のお寺の避難所の利用法です。これが大切なんですね。皆さんは骨になってからお寺に行くと思いますけれども、そうじゃないんです。生きてるうちに使ってくださいと言うんです。お寺は6万軒。郵便局、コンビニは2万軒。そのくらいの数があるそうです。こういったときね、広い敷地。建物は割合丈夫です。中に入ると広いです。寒いかもしれませんが。そういったところを活用してほしいと。住職さんが自らお話ししてるんですね。ですからお寺の避難所の利用法と書いております。

また、これは皆さんも聞いたことないかもしれませんが、ちょっと1番前に戻って、11番目。避難所には災害用のはがき。安否確認用のはがきを設置してほしいと思ってます。これは多分やってるところないと思うんです。まだ福住でもやっていません。これは例えば郵政省にお願いして、無料のはがきを印刷して置けるかどうか。これは何かというと、こんな携帯なんか持ってたって、錯綜して全然通じません。相手からかかって来る分には幾らか通じます。被災地からかけようと思っても全くかかりません。それよりもポストに投函すれば翌日には、ポストがそこにあるかどうかは別にしても、ポストに出して入れれば翌日には全国に行きますよ。確実な安否確認です。そういったことも用意されるといいのかなと思っております。

14番目。動物も家族です。

もう一つ、16番目の避難所の処遇は先ほどお話ししました。

ここでお話ししたいのはこの15番目です。求められる美人の女性のリーダーということです。美人というたら説得力あるんです。皆付いてきますよ、美人には。でも私の言う美人というのはこういうことなんです。目配りができる、気配りができる、心配りができ

る、優しさと思いやりがある方を美人と呼ぶんです。顔ではないです。銀座のママ、売上ナンバー1 は決して美人じゃありません。目配り、気配り、心配り、優しさ、思いやりがある方なんです。そういう方を、本当のリーダーは男性でもいいんですけども、いろいろしていただく、女性です。ですから本当はこの会議も半分は女性の方にいてほしい。地球上、半分女性ですから。とっておりました。授乳の場所、洗濯物を干す、食事を作る、子どもの面倒、御老人の介護、我々経験しました。動物の介護、全て女性です。やっぱりそこは立てて美人だね、立てながらやっていただけるのが一番いいのかなとっております。ですからここにあえて15番目に、求められる女性のリーダーというふうなことで挙げておきます。でも、これだけは思っといってください。女性の足を引っ張るのは残念ながら女性なんです。そこをクリアしながらやっていただければいいなとっております。

また、防災はやっぱり歴史に学ばなきゃいけないです。貞観、米朝、全て地震は来ております。これはやはり防災に、歴史に学んで、きちつきちつと来る災害を防災じゃなくて減災をしなければならないということです。今回は非常にこの減災という言葉が防災よりも先立って話されてます。繰り返しますけども、全ての減災、命を含めた減災、名簿の作成、医療、トイレ、災害時の相互協力協定。これらが必要であるということ。これをマスターしておいて、皆さんで訓練しておけば、いつ来ても立ち向かうことができます。減災をしておく。と私は思っております。

またこれらの震災の年の12月9日に地元紙の河北新報に載せていただいて、これが全国のヤフーに載ってしまったから、我々は対応が大変だったんですけども。こんな福住はまだ常識だということで、挙げさせていただきました。でも非常にうれしかったです。

これは2時46分に地震のときに止まった中野小学校の時計です。2階の部分のちょうどこの辺まで来ました。窓、外枠まで。上に登ってた方が降りたがために亡くなってしまいました。これが蒲生の干潟。七北田川。これが発災前です。これが一瞬にして、この奥のほうにも家がありますよね。ここにも当然、家があります。これは残ってませんが、今や人は住んでません。道路だけ。一つ、二つ、三つ、四つの町内会全滅。これをちょっと上から見ますと、こんな感じです。こっち側が海側。小学校のところです。先ほどのでいくと小学校がここです。ちょっと角度を変えた、上から見ますとこんな感じです。ここも屋根はあるけども、住んでません。キンビールはちょうどこの辺です。仙台新港フェリーの船着き場はこの辺です。これは私は大船渡までの間に一番ひどかったのは、何ととっても52、3年前のチリ地震の津波でも被害があって、42名の方がお亡くなりになってます、南三陸町の志津川。ここだと思えます。町全体がないんです。確かに女川もそうですけども、それよりももっとひどい。この3時36分頃でしょうか。津波が来たという時計。これが、こちらが海側です。煙を立てて、

土煙を上げて来てます。こちらも、これ気仙沼線という線路です。このような状態です。これが本当は数分も、気仙沼線ありません、これからずっと上まで。残ったのは瓦れきと宝物です。こんな状態で、雪降ってます。これが国道 45 号線。これが志津川町。ここから 6km 先まで遡上しました。これが町です、志津川。これがこのような状態です。一瞬のうちに何も無くなったように、多分見えるはずですが。もうちょっと角度を変えますと、こんな感じです。志津川の町です、これは昨日と先おとといも行ってまいりました、スコップ持って。そのときに昭和 8 年の 3 月 3 日の昭和三陸津波ではこういう碑があるんですね。「地震があったら津浪の用心」。この碑はどこにあるか私は分かりません。今回流されたかもしれません。一応こういったことがあったと。これは 50 年前のチリ地震の津波のときの映像として残していたものを撮らせていただいたんです。これが東部有料道路、海側。稲作は全然されてません。こちら側が稲作、黄金色です。こちら側、高速道路に行くと、ここで上が石巻方面、下が南のほう。こういうことですね。これは 9 月の 11 日です、今年の。9.11 って言えばね、アメリカでは本当に、いわゆるテロ事件があった日です。

今まではちょっと暗い話ですけども、ちょっと明るい話です。先ほどパンダを連れていく活動というようなことですけども、関東以北、北海道まで含めて。この剥製パンダ、四川省で野生の本物の体長 1.8m、体高が 80cm の、大人と比べて見ると分かりますけども。これ、病院の待合室に、環境大臣の許可をきちっと取って置いています。それを病院に連れて行く、被災地の子どもさんたちを呼ぶ。あるいは被災地に行って、パンダの皮毛を触らせる。日本が手で触らせるなんてことをすると、どこにもありません、ガラス張り。うちだけは今年の 5 月から約 7,000 名ぐらいの方が増えていきます。一生に一度の本当につらい思い出。被災地には環境省のほうでも連れていっていいですかと問い合わせたところ、「連れていっていいですよ」というふうな話を聞きました。本当は一生に一度の心に残るような思い出をというふうなことで連れていくと、皆さん喜んで。これと、あとウサギ、モルモットを連れていきまして、動物ふれあいも一緒に。綿菓子を持っていこうか、それも町内会で作って差し上げております。こんな活動も今も続けております。

最後になりますけども、「自分が助かる術を真摯に検証する必要がある。」特に今回の津波の後思いました。家に戻って助ける、動物を助ける、おじいちゃん、おばあちゃん残っているので助ける。一緒に亡くなってしまう。その方のその命を考えたとき、そこは真摯に考えてほしいですね。おじいちゃん、おばあちゃんを助けに行つて一緒に亡くなることも想定しつつ、迎えに行かなければおじいちゃん、おばあちゃんは死んでしまう。難しい判断です。でもこれは真摯に考えなければなりません。全て悔い

が残ります。おじいちゃん、おばあちゃんを見殺しにすれば。当然のことです。でも自分が生きれば、自分が生きれば1人、2人、3人、10人、20人、100人、その方々たちを救えるんです。新たに。生きている人間を救える。そういったことを考えてほしい。ただし子どもだけはてんでんこ、急いで逃げさせる。高いところに。近い日本の将来、近い将来の日本を担う子どもたちです。その方たちを逃がしてやる。それはしなければいけないと思います。また、火山列島ですからいろんなものの、災害が天災があります。火山、台風、風雨いろいろあります。「止むことのない災害に強い危機管理意識を携えて。」「たったひとつの大切な人も動物も大切な大切な命を守り続けたいものである。」ということでございます。本当はもう一枚あるんです。これは1828年三条地震、大震災があったんです。新潟県。てんでん手毬の良寛さんが、そのとき歌った歌かは知りませんが、これ良寛さんの歌なんです。「散るさくらのこる桜もちるさくら」。良寛。

御清聴ありがとうございました。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

菅原様ありがとうございました。

『訓練でできなかったことは、実際に出来るはずがない』、『事前の常の訓練が実を結ぶ』という言葉は我々日頃の安全安心の取組においても常に念じておくべきことだと感じ入りました。本日は非常に貴重な御講演ありがとうございました。皆様もう一度菅原様に拍手をお願いいたします。

ありがとうございました。

ここで、恐れ入ります、事務局より少し地震に関して説明がございました。

◎事務局（県民生活・男女共同参画課 武政）

恐れ入ります。地震関係の情報でございます。本日14時40分に津波注意報が発令されました。内容は18時、本日午後6時ですけれども、18時頃に高知県沿岸部に到達予定ということでございます。予想される高さは50cm程度ということでございます。海岸河口付近へ近寄らないこと。大きな津波は予想されていないが、何回も来るので注意が必要ということでございます。この総会でございますが、できるだけ残り手短かに切り上げますが、ただ現時点で地元のほうでですね、何か対応が必要な方いらっしゃいましたら、現時点で退席していただいて結構ですので。またその辺りは情勢によって対応をお願いいたします。

報告でございます。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

続きまして、安全安心まちづくり活動の事例発表を行います。資料 11 ページをごらんください。「嶺北地区地域安全協議会の活動について」と題しまして、嶺北地区地域安全協議会地域安全アドバイザーの正岡真美（まさおか まみ）様から発表いただきます。「嶺北地区地域安全協議会」は、本山警察署管内の 4 町村において、地域安全について住民意識の高揚を図ることを目的に、平成 7 年に設立されました。発表者の正岡様は事務局の地域安全アドバイザーとして、嶺北地区における防犯教室や地域安全に関するイベントの開催などに奔走されておられます。また、県立嶺北高校の防犯ボランティアであります、「嶺北フリューゲルス」や本日功労団体表彰を受賞されました土佐町の「自主防災組織さめうらポリス」などと連携され、地域一丸となった防犯活動を行っておられます。その活動は、本日お集まりの皆様にも大いに参考になると思われますので、御静聴をお願いします。

それでは、正岡様、よろしくお願いたします。

◎嶺北地区地域安全協議会地域安全アドバイザー 正岡真美氏

はい。失礼いたします。ただいま御紹介に預かりました、嶺北地区地域安全協議会で地域安全アドバイザーとして活動しております正岡真美と申します。よろしくお願いたします。私どもが行っている活動よりもですね、もっと活動事例になる、参考になるですね、他の地域安全協議会、また、関係機関、団体の方がいらっしゃるかとも思ったんですけれども、このお話を頂いたときにですね、嶺北地区で活動してる私どもですね、少しでも活動を知ってもらえたらと思ひましてお引き受けをさせていただきました。本日はどうぞよろしくお願いたします。すいません、座って失礼いたします。

嶺北地区地域安全協議会は本山警察署管内で活動しております。嶺北 4 町村を管轄しております。大変広範囲ですけれども、人口は年々減少しております。また、高齢化が進む 1 万 3,000 人足らずの小さな地域ですけれども、活動する上ではとても大変です。また財政難等の問題もありまして、当協議会の存続も大変厳しい状況にあります。犯罪概況、交通概況ともこのようになっております。地域安全活動につきましては、皆さんが活動されている内容とさほど変わらないのではないかと思います。

振り込め詐欺被害防止の寸劇、高齢者防犯教室、福祉保健事務所と行う薬物乱用防止教室、交通安全教室などがあります。非行防止教室につきましては、県警本部少年サポートセンター、サイバー犯罪対策の方を講師に招きまして実施したりと、様々な

やり方で非行防止教室を行っております。また、下のほうに写真がありますけれども、本山小学校のほうでは上級生が下級生に教えるという教室を実施いたしました。まず6年生に非行防止教室を行います。その後6年生がですね、6年生なりに学習をして、その内容をまとめて後日下級生に教室を開くという方法で実施しました。このやり方をうると、上級生も下級生の模範とならなければならない。教えることによって自分たちも悪いことができない。また下級生については上級生に言われたことは先生よりも守るというようなどころもありますので、大変いい教室になりました。

誘拐被害防止教室につきましてもですね、実際に自動車を使用して行ったりもしております。また、地域安全推進員、少年補導員としても活動されております、本日表彰を受けられました渡邊勲さんに護身術を学ぶ教室なんかも開催しております。

不審者侵入対応訓練では、生徒が下校した後、教職員による訓練の反省会。また今後の対応。刺又の使用方法などの学習会を行っております。女性ばかりで、なおかつ小さな子どもたちを避難させることが大変な保育園での不審者侵入訓練は、学校の男の先生に勝る女性たちは本当に強い保育士の方ばかりですが、本山が最初に訓練を始めたということを知っております。保育園の先生も大変熱心に訓練を実施してくださっております。子どもを預けても安心だなと思うことが多々あります。下のほうにあります地域安全の世代間交流、地域安全額づくりというのがあると思うんですけれども、これはですね、早明浦ダムにある流木などを使用して作成をしました。この板についてはですね、ボランティアさんの提供です。これは田舎ならではじゃないかなと思います。

10月11日からの全国地域安全運動ではですね、平成17年度から「安全安心まちづくりフェスティバル」を開催しております。少年ふれあいサポート事業などの助成とか各町村の方々に御協力をいただきながら実施してまいりました。開催の目的はここに記載しているようなことなんですけれども、防犯や防災のことを身近に感じてほしい。また、警察官になりたいなと思うような子どもたちができたらいいなと思いながら開催をしております。開催場所、本山警察署管内4町村持ち回りで行うようにもしているんですけれども、天候の関係とか開催内容のことなんかも考えながら場所を選定しております。

今映っておりますのが平成17年度、18年度のフェスティバルの様子です。地域安全標語づくりというのを実施しております。これはですね、平仮名カードを探して壁に貼り付けていくという競争です。豪華賞品がありました。あとは県警マスコットのポリンくん、ポーリーちゃんと誘拐被害防止教室を実施しております。これは保育園児によるお遊戯ですね。お遊戯とか、少林寺拳法とか、少年剣道部による演武の披露な

んかも行っております。下のほうに写真があると思うんですけども、この写真は四電工さんでありますとか高知銀行さんなどが作ってくれた標語をのぼり旗にしたものなんかを展示しております。

平成 19 年度、20 年度につきましては、ゴーカートを使用しての交通安全教室。白バイデモ走行。警察犬による臭気選別。各種警察、消防車両の展示。消防署による消火体験などを行いました。あと、バレーボール日本代表の山本隆弘選手を一日署長、講師に招いて、少年健全育成に関する講話とバレーボール教室を行いました。

平成 22 年度、23 年度につきましては、嶺北フリーゲルズや大川小学校の生徒を一日署長に委嘱をしまして、消防署による救急救命法、放水体験、交通安全寸劇、警察犬による臭気選別、振り込め詐欺被害防止紙芝居、警察・消防車両の展示、シートベルトコンビンサーでの体験と交通安全教室、似顔絵コンテストなんかを内容盛りだくさんで行いました。今日来ていただいている香南署の刑事生活安全課長の清藤課長にも、このとき本山にいらっしゃったので、交通安全の寸劇をしていただいております。

平成 24 年度はですね、例年どおりの内容なんですけれども、これは大豊町で初めて開催した内容となっております。例年どおり消防による放水体験、警察・消防車両の展示、嶺北中高部校合同吹奏楽部による演奏なんかを行いました。本年度は嶺北特捜レイホークの誕生がメインとなりました。この誕生までの指導とか支援なんかについては、県警本部の生活安全企画課の方に大変御協力をいただきました。毎年県警の音楽隊なんかにも御協力をいただいてですね、御無理を言って参加をしていただいております。土佐町中学校のですね、生徒の方との合同の演奏会であったりとかいうことも実施していただいて、中学生の本当にいい体験になっているようです。また、演奏する音楽に乗せてですね、子どもが前に出て一緒に踊ったりというようなこともあって、すごく楽しいフェスティバルになっております。このフェスティバルなんですけど、企画とか準備なんかは夏頃から始めます。全国地域安全運動の重点項目を取り入れながらですね、内容を決めて関係機関、団体の方に依頼を始めていきます。結構この準備っていうのが大変で、9 月、10 月になるとですね、開催前になると本当に残業の日々と休日出勤の日々となってきます。一番大変なことはですね、このフェスティバルをしていく中でとても大変なことはですね、やっぱり人に来てもらうということです。どんな企画をしても、どんないい内容にしてもですね、地域の方に来ていただかないとやっている意味が無くなってしまいますので、人集めに大変苦労しています。市内のような大きい量販店になってくるとですね、人も必然的に集まってくると思うんですけども、なかなか田舎のほうはですね、平和ですので防犯意識が市内と比べて低かったりとか、津波の心配もなくて防災に関しても市内の人から比べると低い傾向に

あるので、そんな中人を集める苦勞とか、防犯意識を持ってもらう苦勞っていうのは何年たっても、何年やり続けても一番の悩みどころになっております。嶺北消防署の方にも毎年本当にお世話になっております。消防車、救急車なんかもいつも展示をしていただいております。展示はしていただいているんですけども、いつでも出動できるような所・場所を配置しています。救急があったときにはそこから出動していただくというような形を御無理を言って取らせていただいております。ちなみにですね、今年は大豊町だったんですけども、大豊町のフェスティバル開始とともにですね、救急車が出動しまして、帰ってきたのはフェスティバルが終わった後だったというようなこともありますし、開催途中で事件とか事故とかが発生すると、警察官の方々が出動しなくてはいけなくなるなど、進行も大変になってきております。

次に、本日表彰いただきました土佐町で活動しております「自主防犯組織さめうらポリス」について御紹介をさせていただきます。ここは、会員につきましてはここに記載しているメンバーで活動しております。活動は地域安全活動強化日などの登下校時を中心としたパトロール活動です。地域で行われる様々なボランティア活動やイベントに対し、助成することでボランティア活動の活性化を図り、地域社会や生活向上に寄与することを目的とした2011れいほく元気プロジェクトというものに選ばれまして、新ユニフォームも作製することができました。会員の皆さんはですね、さめうらポリス以外にも老人クラブの会長さんでありますとか、民生委員さんでありますとか、部落長さんなんかを務められて大変町内で活躍されている方ばかりです。子どもからお年寄りまで、また、地域のいろんなことを知っている方々ばかりですので、活動でそれをいかして地域の安全を本当に守ってくれている団体の方です。私たちもこのさめうらポリスの皆さんには本当にお世話になり続けているような状態です。御無理ばかり言ってるような状態です。地域の実情以外にも本当にいろんなことを地域のことを教えてくれる団体の皆さんです。本当に今日の表彰に選ばれてうれしく思っています。

次に、「嶺北フリューゲルス」について御紹介をさせていただきます。この嶺北フリューゲルスは嶺北高校による自主防犯組織です。県内初の高校生による自主防犯組織です。地域の防犯活動、交通安全活動、その他の啓発活動を含め地域の中で地域のことを知り、安全で安心なふるさとづくりの役に立ちたいという思いで結成されました。高校生らしい視点から地域密着を目指して、独自の取組を実施しております。結成した当時はですね、活動についていろいろ考えました。普段私たちが行っている活動というのは日中です。日中は学校がある。そしたらじゃあ、放課後にしよう。放課後になると部活動がある。何かイベントを行うとなると、テスト期間中であつたりとい

うようなことで、なかなか難しいんじゃないかなと最初は思っていたんですけども、嶺北高等学校の校長先生の本当に多大なる御理解と御協力には本当に感謝をしているんですけども、教職員の方々の御協力もありながら、学校全体でこの活動に取り組んでくださってですね、またPTAとか保護者、地域の皆さんの御支援とか御協力に支えられてですね、生徒たちは本当に自由に活動を展開しております。これはですね、誘拐被害防止教室の手づくりの紙芝居で、保育園に行って教室をしているところです。はい。学校安全推進講習会でも事例発表としてさせていただくことができました。これはですね、安全安心まちづくりの看板を作成しているところです。この看板の文字をですね、生徒たちが小中学校から呼びかけて募集した標語を使って看板にしたものです。この標語も300ぐらい作品が集まってですね、すごいなと思ったところです。この上の写真は、安全安心まちづくりの標語を募集して作った苔アートです。これも子どもたちが全部手づくりで校長先生も自ら参加をしながら作ったものです。使用した水は1カ所につき400リットルということで、もう本当にみんなびしょ濡れになりながら活動をしました。嶺北高等学校で行う非行防止教室についてはですね、メンバーが事前に自分たちの生活の中で無意識にやることが罪になるかならないかのアンケート調査を中学生と高校生全員に事前に実施をしていただいて、その回答と回答に伴う補足説明をこちら側が行うというような形の教室を行っております。去年、この高知県安全安心まちづくりの功労団体にも受賞させていただくことができました。年々ですね、いろんな取組を嶺北フリーゲルスは行っております。これからどんどんまた期待できるんじゃないかなと思っております。

嶺北地区でもですね、声かけ事案とかですね、犯罪が少なからず発生しております。さめうらポリスを始めですね、老人クラブ連合会の方々、婦人会の皆さん、各小中学校のPTAの皆さん、保護者による見守り活動なんかが大変盛んに展開されております。嶺北地区の朝はですね、本当に厳しいです。マイナス4度の日があったりマイナス5度の日があったりと、最高気温が3度4度だったり、雪の降る日もたくさんある地域です。そんな中でですね、ボランティアの皆さんは毎日休むこともなく行ってきております。街頭活動を行って来ております。平和な地域やき、なんちゃあない地域やき、何もないから活動しなくてもいいとか、犯罪や事故がないから活動しなくてもいい、ではないんだと、ボランティアさんは言います。犯罪とか事故が起こらないように私たちは活動しているんですっていうふうに言うのが大変うれしいなと思っております。活動して下さっている方々が地域を回ったりとか活動している姿を見せるとか、地域住民がその活動を目にすることでですね、誘拐されんようにせんといかんとか、振り込め詐欺の被害に遭わないようにしないといけないとか、

戸締まりをしようとか、信号を守ろうとか、シートベルトをせんといかんとか、そういう意識を持ってくれるだけでも大きな価値があるのではないかなと思っております。また各町村の自治体の方も大変御理解と御協力をいただいておりますね、事件とか事故が多発した際にはですね、防災無線で応酬をしてですね、すぐに町内に放送してくれたりということで、地域住民に知らせること、注意してもらうことができているような状況です。嶺北地区だけでなく、どの地区も皆さん本当に熱心にされてる、活動されてると思います。ボランティアさんを始めですね、どこの団体にも属さず活動してくれてる方もいるんじゃないかなと思います。私たちは仕事でこういった活動に携わらせていただいておりますね、地域の方と一緒に活動しながらですね、どうしてこんなにできるんだろうと、どうしてここまでできるんだろうと思うことが本当にたくさんあります。これだけ地域の方々が活動して、熱心に活動してくれていることをですね、知らない警察官の方がたくさんおります。ボランティアの皆さんの熱心さとかですね、活動を少しでも知ってもらえたらと思ってですね、嶺北地区も報道なんかには依頼をするんですけども、市内のほうに報道を取っていかれたりとか、依頼しててもその場所に来ていただけないというようなこともあって、ちょっと悔しい思いもしたりしております。平成 26 年の 4 月にですね、本山警察署は高知東警察署に統合されます。今後ますます現在行ってくれている地域ボランティアの皆さんのお世話にならないといけないことが多くなるんじゃないかなと思います。地域安全アドバイザーとしてですね、ボランティアの皆さんの活動を始め、様々な地域安全活動を今後も関係機関、団体の皆さんに御協力を頂きながら活動をしていきたいと思っております。本山の地域安全協議会は市内から比べると地区も小さいし、人口も少ないので、仕事量もそんなにないだろうと、少ないだろうと、暇だねと言われることもあります。そんなときは、私が思うことなんですけれども、嶺北で 1 カ月活動してみてくださいと思います。寒さ厳しい中、雪道、山道を命懸けで訪問に行っています。道に迷っても、本当に自分がどこにいるのやら、聞く人もいないような中で、崖に落ちても本当に誰もこれ見つけてくれないだろうと思うような、ガードレールもないような、本当に山間部を訪問したりしております。訪問活動に行ってもですね、訪問件数も上がりません。1 日で 5 軒であったりとか、迷いに迷ってやっと 1 軒。終わったらお昼が過ぎちゃったとか。そういったようなところで活動しております。高齢者教室にしてもですね、早朝から署を出発してですね、高齢者の教室が終わって署に帰ると勤務時間が終わってたというようなことも多々あります。効率よくはいかない大変な地域なんですけれども、これからも活動を広めていきたいと思っております。

まとまりのない話ではありましたが、最後まで御清聴いただきましてありがとうございます

ございました。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

正岡様、ありがとうございました。正岡様を始め、嶺北の皆様、活動団体の皆様が無事に活動されている状況が本日、非常によく分かりました。私たちの今後の活動の参考に大いになると思います。もう一度正岡様に盛大な拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

続きまして、予定しておりました意見交換でございますが、津波注意報の関係することもありまして、ちょっと都合により省略をさせていただきます。誠に申し訳ございません。また皆様に提供できる情報などございましたら、事務局のほうで安全安心まちづくりのニュース、会報などを発行しておりますので、そちら事務局のほうまで情報をお寄せいただければと思います。

続きまして、『安全安心まちづくり宣言』を行います。資料の 12 ページをごらんください。宣言文の読み上げでございますが、前田副会長をお願いいたします。

◎高知県安全安心まちづくり推進会議 前田副会長

安全安心まちづくり宣言。

安全で安心して暮らせる社会は、県民すべての願いです。

私たちの身近なところで起きる犯罪の被害から、自分や家族、地域を守るためには、県民一人ひとりが防犯意識を高め、子どもや高齢者の見守り活動など、できることから取り組んでいくことが必要です。

ここに、私たちは『高知県安全安心まちづくり推進会議』に参加し、「犯罪の被害に遭わずに安全で安心して暮らせる高知県」をめざして、連携・協力をしながら、安全安心まちづくりに取り組むことを宣言します。

一つ。毎年度の事業計画に安全安心まちづくりを位置づけ、自らの活動として取り組んでいきます。

一つ。各地域にも、安全安心まちづくりの考え方が浸透するように努め、広く県民によって支えられる運動としていきます。

一つ。推進会議として実施する活動に参加・協力し、県民の安全を脅かす被害の防止のための活動に取り組みます。

平成 25 年 2 月 6 日。

高知県安全安心まちづくり推進会議。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

前田副会長、ありがとうございました。

それでは、最後となりましたが、総会の閉会に当たりまして、加藤副会長から『閉会のことば』をお願いいたします。

◎高知県安全安心まちづくり推進会議 加藤副会長

それでは、津波注意報も出て、若干落ち着かないところではございますが、閉会に当たりまして一言御挨拶申し上げます。

どうも本日は、この高知県安全安心まちづくり推進会議総会に御参加いただきまして、誠にありがとうございました。先ほどですね、今日は御講演二つ頂きまして、先ほどは仙台市の菅原康雄様から東日本大震災の経験を踏まえた準備の大切さ、地域力の重要性についてのお話を頂きました。やはり、ああいう形でお話伺いますと、2年ほど前にいろんな映像とかを見たときの衝撃とかですね、そういったものというのはやっぱりちょっとよみがえってくるころがございまして、もちろんあの体験を教訓を忘れないで、いろいろと対策を引き続き取っているさなかではありますけれども、やはり改めて今後とも各種の対策に努力していかなければいけないということを再認識させられたところでございます。また、我々ですね、自助・共助・公助ということをよく申しているわけでありまして、今日は他助という言葉もありましたけれども、そういった形で、我々としては、要するに公務員の側ですから、やはり公助のほうを頑張りますという話なわけでありまして、そうは申しましても、やはり自助・共助・他助ということも大変大事なわけがございまして、立場上、行政に頼らずに頑張ってくださいというのもなかなか難しいところもございまして、やはり行政としてはできることはやりますので、是非皆様方も御努力、御尽力お願いいたしますということで、今日のお話がまたそういったきっかけになればというふうに思う次第でございます。

それからまた、嶺北地区の地域安全協議会の正岡アドバイザー様からも、さめうらポリス、ボランティアですね、ボランティア・さめうらポリスの皆様方、それに高校生中心の嶺北フリーゲルズとか、そういったいろいろな形で工夫をした地域ぐるみの防犯活動についてお話を頂きました。いろいろ工夫されているということで、その中にはやはり本山ないし嶺北地区ならではというものもあるかもしれませんが、逆にやはりどこの地域でも同じような形で進めていけるような、そういった内容のものもあったかと思えます。今後とも、お集まりの皆様が活動される中での参考にさせていただければというふうに思うところでございます。お二人、本当にありがとうございました。

した。

さてですね、この総会におきましては、先ほど、平成 25 年度において高知県の安全安心まちづくり推進会議で取り組むべき重点テーマ 4 点ということで定められたところでございます、順番に、「地域で子どもを見守ろう」、「高齢者などを事故や事件から守ろう」、「鍵かけ運動を進めよう」、「振り込め詐欺などの被害を防ごう」という四つのテーマでありまして、基本的に前年度と同じ、前年と同じ内容ということでありますけれども、やはり先ほどの事務局からの説明にもございましたとおり、それぞれですね、例えば子どもであれば声かけ事案は減っているとか、鍵かけであれば自転車盗についてもいろいろと自転車盗難防止モデル校ですとか、いろんな形での対策も進みましたし、ある程度犯罪減少の成果が上がっている部分もありますけれども、やはりそれ以外の侵入盗ですとか振り込め詐欺ですとか、それぞれですね。あと高齢者の事件事故ですね、その関係などもいまだにやはりなかなかですね、減少しているとばかりも言えない、むしろ増加してるものもあるということでありまして、こういったものについては引き続き力を入れて取り組んでいかなければいけませんし、これもまた一人ひとりの方がいかにそういう被害に遭わないように対策を取っていただくかというところが大事なものとございますので、是非皆様方と一体となつての活動を進めてまいりたいというふうに思っております。県警察としましても、安全で安心して暮らすことのできる高知県というものを目指した活動に向けて引き続き取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様方におかれましてもそれぞれのお立場での一層の御尽力というものをお願いしたいと思っております。

最後になりましたけれども、皆様のますますの御活躍と今後の御健勝、祈念いたしまして、閉会の挨拶とさせていただきます。本日、誠にありがとうございました。

◎司会（高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課 山崎）

加藤副会長、ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の総会を終了させていただきます。皆様方には長時間にわたり御参加をいただきまして、誠にありがとうございました。どうぞお気を付けてお帰りくださいませ。ありがとうございました。